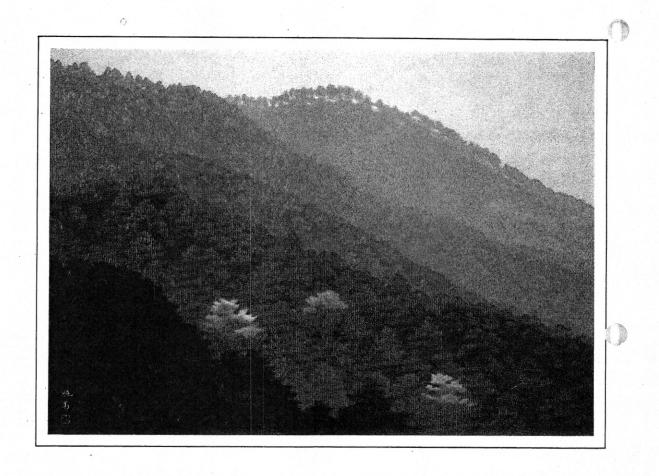
### 国民と森林

1989年·秋季 第 30 号



国民森林会議



りになったのですか。―― 北海道大学を出られるとすぐ故郷にお帰

佐伯 私が卒業した年は、旧制と新制の卒業が重なり、大量の卒業生が出たものですから就職難でした。私は、林学科でしたが、勉強はしないで山に行ってはじゃがいものドブロでしたから、パルプや県庁の林務部にはまいでしたから、パルプや県庁の林務部にはまいでしたから、パルプや県庁の林務部にはまいが、勉強は、大量の卒業生が出たものですか

にあこがれていましたし……。ドで生活をすることができました。私も自然宗教登山が近代スポーツ登山に変わり、ガイ宗教

# 感激した南極の″緑″

# 佐伯富男さんに聞く世界の森林

は変わっていたでしょう。は変わっていたでしょう。は変わっていたでしょう。という状況でした。あっとも、越冬するという状況でした。ないから、出港までは文部省黙認で、食糧も余いから、出港までは文部省黙認で、食糧も余いから、出港までは文部省黙認で、食糧も余いから、出港はできなかったから、この時期を担いる。

南極は氷と褐色の岩の世界、植物は全く無 を集めて、それに二十日大根をまいた。芽 原を集めて、それに二十日大根をまいた。芽 層を集めて、それに二十日大根をまいた。芽 がでて南アフリカを出て一一か月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一か月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一か月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月ぶりに緑を がでで南アフリカを出て一一が月がりに緑を がでである。土、といっても風化した岩石の

冬でも緑は見える。というない。日本では、緑のありがたさは分からない。日本では、緑のありがたさは分からない。日本では、緑のありがたさは分からない。日本では越冬した明くる年、帰国の途中で南アフリ

究会会長。

完会会長。

共通でしょう。

になっている。スマトラにはすばらしいマ無くなっている。島が埋め立てられ工場地帯ポールなどは、行くたびにマングローブ林がマングローブにも関心があります。シンガ

世界を歩かれていますが、森林の荒廃は

### 国民と森林



No.30 1989年秋季号

<巻頭インタビュー>
感激した南極の緑
佐伯富男さんに聞く世界の森林
■特集 三重県海山町を見る2
国民の森林を考える
一森林は地域活性化のキーワード
■森林リゾートの問題点②6
"これしっか文化"のすすめ
掛川市長榛村純一さんに聞く
■日本における国有林の成立とあゆみ<2>…8
一国有林経営の充実期一 半田良一
■特集・河川■
水を歩く③ 水は何処にある 松澤 譲…14
<日本の川を考える一現地調査>18
大井川を訪ねて 秋山紀子
<日本の川を考える一公開講座の記録③20
<連載・森と木のある生活⑪>22
草山一草肥農業市川健夫
八ケ岳森林教室報告 高木保夫26
■森林利用と自然保護プロジェクト②29
■切抜き森林・林政ジャーナル36
■会員の消息 東山魁夷/高橋延清/福武直…38
<b>38</b> 会員の出した本38
(これしっか文化のすすめ/東山魁夷/
日本に森林はいらないか/マタギを
生業にした人たち/むらの戦後史)
■熱帯雨林シンポジウム開かれる40
■会員紹介41

おけばの

表紙

0

言

葉

### 東山魁夷

ない。

技術を習わなければ、

若い人は外国では働け

現地の労働者の使い方、

救急法など生活

ザン学」の講座でも設け、パイオニア、アド

ベンチア精神にあふれる野性の動植物の料

(昭和43年:100cm×73cm)

春の朝が比叡の山上に明ける。

青紫色の濃淡を示して重なる峰々。

谷あいの遠く近くに、

ほのかに匂い出る山桜。

小鳥の声がしきりである。

(北澤美術館所蔵)

隅谷三喜男 目次題字 森前しげを カット

めました。大学で山に登るのは三年間、 登山の経験者がいなければ許可しない」とき で二十年前『登山条例』を作り「剣岳の冬の ニア、アドベンチア精神は育たない。富山県 ぶことまで管理しているが、これではパイオ ングローブ林がありましたが……。 技術で森林の復旧を援助したらいい。 優れているのですから、お金ばかりでなく、 でなく植えないといけない。日本は技術的に たが、材木の買い付けにきている。買うだけ 佐伯 インドネシアでも北海道大学の後輩に会っ 最近は山岳部に入る学生が少ないようで 親が子供を管理し、 学校も役所も遊 剣岳

冬山の経験さえあればいいのでないか」とい スラウエシ島のジャングルで四か月生活した でも五人を割った。北大・京大でやっと二〇 って条例を変えさせましたが……。 北大・京大など山岳部のエリート大学でも剣 ホースで引き、 ことがある。 もどんどん外国へ働きに行くようになる。 岳に登れなくなった。私は三年前「どこかの に三年来なければもう登れなくなるわけだ。 人を越えている淋しい状況です。 私は通産省の国際協力隊の現地責任者で、 これからの日本人はシベリアでも、 伝統ある早稲田で山岳部は四、五人、日大 本流の対岸から湧き水を番線と ドラム缶を切断して風呂を作 熱帯で

焼き豚を作って食べた。

シベリアやアマゾンでも仕事ができるよう

これからの大学には「設営学」か「ター

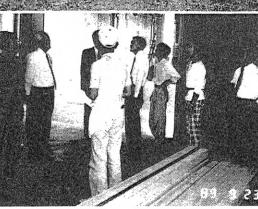
べない。ロープをほどいてその糸で肉を巻き べるのだが、若い人は「臭い」とかいって食

食糧はイノシシやカモシカを槍でとって食

らなかったようだ。 私達はそうはいかない。前年の隊は風呂も入 0 た。現地の人は濁った河で飲み水をとるが









二五~八○年という林を歩きながら、育林の苦労やポイントの説明。

(全国平均の五倍に近い)を足で実感しました。(写真上)

その後、岡本製材所でヒノキの柱材の製材を見学。価値を決める木

### ど好意で、

### 平均の四〜五倍」「山林経営者と製材工場一体で立木の価値を高めて タール八○○○本植え、全国平均の二倍の労働量を投下、収益は全国 枝打ちや間伐のできた見事な林。ヘクタール五○おを越える林道網 いる」など、海山林業の特徴の説明を受けました。その後、ヒノキの

# 国民の森林を考える

シンポジュウム

取り、乾燥後を見越して挽く技術に感嘆しました。続いて、製材業界

を見ました。むっとする乾燥室に入り、木の香にむせかえる一幕もあ の含水率の差など計器で計りながら、年間三五〇〇立法がの乾燥施設 が共同で設置、森林組合が運営している乾燥工場を視察。心材と偏材 って、地元の皆さんの好意あふれる見学を終えました。(写真下)

調和させ、森林と共生する世論を作りたい一と をかけ、森林と地域がどう変化し、生活・労働 願い国民森林会議を結成。定点調査は長い時間 林業が対立するのではなく、いろいろな視点を 参加して半田良一幹事の総合司会で開会。 っていくために設定したもので、海山町と群馬 が変わっていくのかを中に入って観察し話し合 まず隅谷会長が、「森林をめぐり自然保護と

調査の中間報告をかねたシンポジュウム「国民 の森林を考える――森林は地域活性化のキーワ

をとらえて、三重県海山町町民センターで定点

海山町で開いた評議員会の機会

森林は地域活性化のキーワード

町

重 Щ

海

県上野村を選んで調査をしてる。今後もわれわ 参加の評議員からの発言、フロアーとの交流と 伸島根大学助教授から基調報告を受け、その後 い」と開会の挨拶をしました。 れに対し、町民の皆様から注文をもいただきた 半田幹事の司会で、定点調査チームの北尾邦

(文責・事務局)

続き、午後一時二〇分過ぎ終了しました。

長、上村海山町長などの来賓、町民一〇〇人が 林業経営者協会相談役、中川大阪営林局経営部

午前九時半、小井三重県林業事務局長、速水

ド」を開きました。

三重県海山町で開いた評議員会に先立ち、評議員は地元森林組合の

まず速水勉さんの山林で、速水さんから「全国平均の三倍近いへク 「海山林業」の現地と施設を見学しました。

六年一一月、五年間に一応の調査をすることで 不十分ですが、中間報告とします。 スタートしました。しかし、まだ調査は中間で 海山町が定点調査地に選ばれたのは、一九八

テナも高い、新取の気性に富んだ地域でした。 資のメインルートにあたり、江戸の情報のアン 営してきた数少ない地域、伝統産業として成熟 した地域だといえます。古くから、江戸との物 海山町(海山林業)は目標に向かって山を経

③森林経営と製材業の連係協調 を商品化しようとの試みがある。 があるということです。 材の全形質を活用、山の全産物 活性化、地域振興に貢献。②木 す。①異業種の集まりが地域を 私の注目した点は次の三点で 林 2

じ、苦情の発生につながったが、国産材の対応 は遅れた。また、かつては山村生活は山と総体 エアコン生活が普及し、材のひび割れなども生 変化した。団地サイズで住宅の規格も変わり、 価格形成の力を失うと共に国産材の流通機構が 寸断された。この二○年間に需要・消費構造が っています。外材の主導権のもとで、国産材が 全国的に林業の衰退、山村の疲弊が問題にな

> は調味料」のキャッチフレーズで都市住民に売 その打開のため、移動式製炭装置で炭を焼き「炭 それでもなお間伐材の販路には苦心している。 有数なもので、間伐の促進に一役かっているが、 的にかかわってきたが、それも欠けてきた。 い備長炭でなく、アウトドアのライフスタイル った。紀州は備長炭の産地ですが、火もちの良 海山町は、間伐材の小丸太市場としても全国で

に合わせたバーベーキュ用の炭として消費者に

### 基調報告 林業と製材、異業種が手をとって 北尾邦伸 助 教 授島根大学

けた。造船業の不況で舟大工を活用したヒノキ 受け入れられた。製炭の際でる木酢液をムカデシ や高野マキの風呂などを作り、それが出前住宅 ャットで売りだし、ヒノキの匂い袋なども手掛 ら、「他人の持っていない物が欲しい」という わっていたように思います。 それまでは「他人の持っている物が欲しい」か へ発展した。これらには、異業種の知恵もかか 一九八〇年を境にして消費構造は変わった。

気持ちが強くなった。産地直送運動も生活者と 混住社会の長所を生かしてほしい。 農村が手を取り合って、「食べかたを変えて、 にも現れている。農林漁業が混在するこの町は てきましたが、異業種の働きはそういうところ に思います。そういう運動をつなぐ組織もでき 農政を変えよう」という運動になってきたよう

海山町産の木造です。それは、地元材の消費拡 この町では、住宅・中学校・乾燥工場なども

せる「地域学校給食」のように で取れた良いものを子供食べさ す意義も大きい。 地元材の誇れるものを次代に残 大という視点だけでなく、地元

う計るかが課題です。 界と林業経営者の連係が、海山林業を支えてき めて可能にしています。製材業界が乾燥工場を 運び、有利な採材・木取りなどで付加価値を高 集約経営を支えている。それは、長材で工場に いる。立木も地元の製材業者が二割高で購入し、 を産出し不況下でも市場を形成し活況を呈して ました。今後集約経営のなかで生産性向上をど 建て、森林組合が運営しているような、製材業 海山林業は集約的施業で、良材

印象、今後の課題などについてコメントがあり 基調報告を受けて、出席のパネラーから町の

> 地域としても雇用対策制度を 佐野稔(和歌山大学教授)

働にありがちな不安定雇用を技能訓練と作業の 勉強した。拝見した速見さんの山では、林業労 していて振動病にかかわってから、山林労働を 私は和歌山労働基準局の労働基準審議委員を

> 振動病軽症者の仕事の場も確保してほしい。 地域としてこうしたものを制度化してほしい。 組み合わせで克服している。企業としてでなく、

萩野敏雄 (大日本山林会常務理事) これからの林業の発展の指

いままでの林業発展の指標は二つ。①自給率



標が国・地域・個人に求められている。森林構造の改良は終了した。その後の新しい指人工林率が林業発展のメルクマールになった。年代は復興のための造林、三○年代は拡大造林、二%になった。②森林構造の改良は、昭和二○で四四年五○%だったものが、六三年は二九・で四四年五○%だったものが、六三年は二九・

時間の差をどう乗り越えるか内山節(哲学者)

るか、近代化で変わる人間にどう対応するかだ。なれ、近代化によって時間のテンポは早まり、近代人は、その中で時間のかかる林業をすることは困難。山の時間と人の時間の食い違いが必要だ。近代化によって時間のかかる林業をすることは困難。山の時間と人の時間の乗いよやは継いだ②需要の急速な拡大などの特殊な条件が継いだ②需要の急速な拡大などの特殊な条件が出いて変わる人間にどう対応するかだ。

山の楽しさを教えたい松沢譲(ジャーナリスト)

るが、そうした国際性を養うことも大切。占冠村で姉妹都市の交流のため英語を習っていらない。一度都会に出てもいい。その前に「山は楽しい」という気持ちをどう植え付けるか。らない。一度都会に出てもいい。その前に「山は出来なくなっている。森林を育てても後継者は出来なくなっている。森林を育てても後継者は出来なくなっている。

近藤正巳(宇都宮大学名誉教授)

林学の再編成が心配

岐路の林学の将来が懸念される。

ま大学では林学の再編成がすすみつつあるが、の一定でないものを扱う実際はすすまない。いの一定でないものを扱う実際はすすまない。い計測の学問の理論はすすんでも、木という形状計測の学問の理論はすすんでも、木という形状がある。

は二四年に素材の流れをつかむため栃木県

山村の脈を取り続ける大野盛雄(東京大学名誉教授)

点調査を続けている。テヘランで政変があった(イランのヘィラバードに二五年通い続けて定

クする山村の脈を取り続けたい。素地が出来た。国の大きな動きをフィードバッでもようやく村人との交流が出来、定点調査の見ると国民の目から見た真実がわかる。上野村り、指導者が死んだりしたのを、田舎の村からり、指導者が死んだりしたのを、田舎の村から

近代化の負の面も直視隅谷三喜男(前東京女子大学学長)

大内力(東京大学名誉教授)
大内力(東京大学名誉教授)
大内力(東京大学名誉教授)
大内力(東京大学名誉教授)

山村に人の定着を

たり、土地の産物を生かした加工業を作れ。による省力化を計ってきたが、自然を破壊し、に住むように政策を変え、農林予算も七~八倍に住むように政策を変え、農林予算も七~八倍に住むように政策を変え、農林予算も七~八倍による省力化を計ってきたが、自然を破壊し、による省力化を計ってきたが、自然を破壊し、農業でも経済効率性を求めて規模拡大、農薬農業でも経済効率性を求めて規模拡大、農薬

手を入れた優良材を

榎戸勇(日本米材原木協連合会副会長)

%。今後、北米材は自然保護で天然林の伐採は一一~六月の製材用素材の入荷で北米材は四一

の手法、ヒノキの端材利用の木工を興しては。増える。人工乾燥材はいいが、葉枯らし材などう。良質な天然材に変わる人工優良材の価値は出荷に問題。ニュジー材の供給は今後増加しよ規制、目の荒い人工林材が占めよう。ソ連材は

### 北村暢(元林政審議委員)

## 国民の理解深め林業振興

れを国民に理解させ森林を維持・育成したい。は木材の生産だけでなく多くの価値を産む。そるときに、学ばねばいけない経営姿勢だ。森林が請負依存を強め、次の労働後継者に心配があめている。間伐の実行が懸念される時、国有林めている。ではないないがないなどではないがあるというではない。

# 柴田敏隆(自然保護協会理事・著述業)

### 可能性秘めた海山町

ジーライフをするために高い意識が必要だ。で私狩猟場経営も可能。その地にあったエコロを過ごした森に帰ることが必要。ここでは、カを過ごした森に帰ることが必要。ここでは、カンプファイヤーでは困る。人類の歴史の九九%ンプファイヤーでは困る。人類の歴史の九九%子供達は自然と遊べないばかりか、心身共に子供達は自然と遊べないばかりか、心身共に

## 田中茂(組合林業株式会社社長)

## 森林組合が林・産結ぶ

地を調査、その後は架線が主流の中で林道を入九年の林業基本法の頃独自の技術体系をもつ当海山町は四回目。三六年の植栽本数調査、三

たことを定点調査で仲介したい。 共生してきたが、国民森林会議としてもそうし学んだ。森林組合が組合員と林産業をつないでれ、原木市場を作った先見性など多くのものを

高齢化社会の生きがいに土田武史(国士館大学助教授)

適地だ。
労働者六・五人が一人の高齢者を養うが将来
は二・五人になると政府は宣伝。子供を入れる
と扶養は現在と余り変わらない。しかし、医療
も甲斐ある労働をしながら、万一の医療も受け
き甲斐ある労働をしながら、万一の医療も受け
られることが必要で、自然に囲まれたことは最

### 会場との討論

って欲しい。 会場 (山下町議会議員・女)農のありかたは林会場 (山下町議会議員・女)農のありかたは林

大内 賛成。米国は日本より強力な国境措置 大内 賛成。米国は日本に比べ補助は一○倍以上。日本 の農林予算は国家予算の一二%から六%に減っ の農林予算は国家予算の一二%から六%に減っ でいる。

い活用はどの程度拡大するか。の優良材の嗜好は続くだろうか、②森林の幅広懸けて優良材を生産しているが、今後も国産材懸けて優良材を生産しているが、今後も国産材のでは、「大学学院」である。

需要は増えないが、天然林の供給が減

でて需要があろう。だろう。本物指向が一点豪華の間取りなどにも少、内装材のフェイスも人工優良材に依存する

松沢 文部省が五泊六日の自然観察の野外教 松沢 文部省が五泊六日の自然観察の野外教 を正課に取り入れたが、実施は小中学校の一 1 のフロント・アドベンチャー事業を企画したが、四一都道府県の実施に止どまった。場所 がない、教師がいないため。高齢者の生涯学習がない、教師がいないため。高齢者の生涯学習がない、教師がいないため。高齢者の生涯学習がない、表情に対している。

### まとめ

半田 長時間の討論ありがとうございました。 学田 長時間の討論ありがとうございました。 半田 長時間の討論ありがとうございました。

木材の形質の総合利用とともに、レクや教育など森林の自然的価値をどう生かすかが問われている。都市とのコネクションをどう作るか、あせるとレジャー産業に利用されることになる。都市の住民との付き合いが深くなると、町民のアイデンテイテイが求められる。そうした討論すでの調査のお礼と、今後の調査の協力をお願までの調査のお礼と、今後の調査の協力をお願いして、このシンポジュウム一応のまとめとします。後援いただいた町と森林組合に感謝申し上げます。

# /これしつか文化/のすすめ

# 生涯教育の中に位置付けたリゾート

一一リゾートが各地で進められていますが。 標村 日本列島は ※総リゾート と言われています。掛川のように卓越した森林がない地域います。掛川のように卓越した森林がない地域います。掛川のように「連した森林がない地域にも、森林を開発しながらゴルフ場を作り、リートッと言われていますが。

その原因は東京側と地方側と両方にあると思れます。東京側は地価の暴騰と超過密の \*あふれ現象\*。地方側には人口減少の過疎市町村が一一五〇もある。全国に一〇万人以下の都市が四四八ある。ここでは共通して商店街も衰退して、活性化に打つ手が無い状況になっている。そこでは「客を呼ぼう」「資本を呼んで開発したっ」という姿勢になる。

人が老齢化して後継者がいない。下草刈もリゾートの風潮に「これでいいのかな」と思うのが最近の心境です。一見華やかなリゾート開発が最近の心境です。一見華やかなリゾート開発が最近の心境です。一見華やかなりで、と思うの背景としては、週休二日制や物余り時代で、背景としては、週休二日制や物余り時代で、

しないでしょう。いなくなる。リゾート資本は買った山しか掃除か、あと十数年でうちの森林組合も作業班員がか。

―― 市長は、一貫して自然を身近に置こうとい

う市政をされてきましたが

榛村 リゾート現象のなかには、母川回帰の はい。まだ、萠芽的ですが……。しかし、人間 の人格形成にとって、幼少年期に自然のなかで も当るとか自然と遊ぶことが重要なことは確 かでしょう。また高年齢になっても「自然に帰 かでしょう。また高年齢になっても「自然に帰 かでしょう。また高年齢になっても、自然に帰 がでしょう。また高年齢になっても、自然に帰 がでしまう。また、前芽的ですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽のですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽のですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽にといるですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽にといるですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽的ですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽にといるですが……。しかし、人間 ない。まだ、前芽にといるですが……。しかし、人間 ない。また、前芽にといるでは、自然に帰 ない。また、自然に帰りたい」とか「木質のものに はいるといるでは、自然に帰りたい」とか「木質のものに

われ、安全面から建築基準法で使用が規制されました。「木は腐りやすい、燃えやすい」とい病室を戸障子にしたとか、橋の欄干に木を使い私は木レンガを歩道に敷いたり、市立病院の

てきた。一面、建築基準法は「木材排斥法」なんです。今度市では、山内一豊が一五九五年につとった木造三層の天守閣をそのまま復元しよた天守閣がありますが、鉄筋コンクリートで木造のものはない。これも、建築基準法がネックとなっている。ですから、木を使うとかえってとなっている。ですから、木を使うとかえってとなっている。ですから、木材に親しむ、渓流に親しむ、自然に親しむことは物凄く重要なことだと思います。

うに自分のやり方で自然を楽しむことが出来な日本人は個が確立していないから、欧米のよ

の若者は「人が大勢いる自然が好き」なんです

日本人は、自然が好きでしょうが、都会育ち

ね。これも二律背反でしょう。

榛 村 純 -掛川市長に聞く



秦村純一(しんむら・じゅん 中部では、早稲田大学卒、 生まれ、早稲田大学卒、 株業経営に従事。掛川市 森林組合長、七七年より 森林組合長、七七年より

ていないのではないか。不安になる。「幸せの自分なりの尺度」が出来い。みんながやっていることを一緒にしないと

人口が減り資本と都会の人を呼ぼうというリゾート構想と、そこに住んでいる人がゆったり者でなければならない。が、極端に人口が減り全身衰弱症の町村ではそんなことはいっておれない。少ゾートはそこに住んでいる人が幸せでないと本当でない。一二〇日も休日がとれるようにとか当でない。一二〇日も休日がとれるようになり、現代生活を脱皮した自然生活を求める衝動は強くなるのではないか。そういう時代だから昔の山村のただずまいのなかの小規模リゾートという手法が出来れば面白いと思いますね。トという手法が出来れば面白いと思いますね。

すね。だから私は、日本でも年金の基礎年金部 の問題も大きい。 会の方が好きです。居つかないのは子供の教育 くなった。首都圏にいった女性は帰って来ない。 分を思い切って多くすれば安定すると思います。 存在価値を認めて助成している。それが必要で というんです。政府は観光と農林業を総合して カだ」というんです。「ただアンペイドだ」と と笑って「われわれはナショナルパーク・ワー 林業をするのは大変ですね」というと、にこっ で仕事をしている人に「こんな高いところで農 を維持しています。スイスに行ったとき山の上 つけくわえた。給料のない国立公園管理人-日本の場合深刻なのは女性が山村に居つかな 女性は自然保護を真面目に考えますが、大都 スイスなど「海抜別の助成」をして山村の姿

私は「清い川の流れは一つの文化である」とす。幼児心理学で「幼児が一番楽しいのは、流す。幼児心理学で「幼児が一番楽しいのは、流が、子供の頃川に飛び込み、魚をとって遊んすが、子供の頃川に飛び込み、魚をとって遊ん

いうんですが、するとその地域の人は「そうだ

の活性化にとっても大事ですね。
―― そこにしかないものを掘り出すことが地域ければ――というんですが、確かに紅葉の美しければ――というんですが、確かに紅葉の美しかところは貧しいという「哀しい矛盾」なんですが。の活性化にとっても大事ですね。

トのための重要な装置だと思います。でこれは掛川駅だけです。こうした駅もリゾーでこれは掛川駅だけです。こうした駅もリゾー整備しました。木レンガを敷き、三三種類の木整備しました。木レンガを敷き、三三種類の木

(「茶能散悶」という文字を自著『これっしか文化のすすめ』の扉に書きながら)これは白楽文化のすすめ』の扉に書きながら)これは白楽大の言葉で、「緑茶を飲むと良くストレスを解消できる」という意味ですが、「都会人が静岡の田舎にきて、ゆったりと緑茶を飲みながらストレスを解消する」。そうなるといいな――と思トレスを解消する」。そうなるといいな――と思トレスを解消する」という文字を自著『これっしか、(「茶能散悶」という文字を自著『これっしか、(「茶能散悶」という文字を自著『これっしか、(「茶能散悶」という文字を自著『これっしか、(「茶能散悶」という文字を自著『これっしか

# 日本における国有林の成立とあゆみ2

# 国有林経営の充実期

## 国有林野特別経営事業



整理処分

施業案編成 周囲測量

四一万加 三七五万加 一〇五万㎞

人工造林

八六)年に設置された大・小林区署も、当初は このような国有林を、産業としての林業の発展 単に森林の管理機構というだけの存在だった。 管理するだけにすぎなかった。明治一九(一八 定された不要存置林野を売り払い、その収入を 会計として、森林資金特別会計が設置された。 林野特別経営事業である。またそのための事業 のが、明治三二(一八九九)年に始まった国有 をリードする積極的な経営事業体(変身させた 分類された土地を、政府がそのまま引きついで のうち官民有区分の基準に照らし官有地として 明治前半の国有林は、もとの幕藩直轄の森林 特別経営事業は、政府の直営に適しないと査

> 二一)年まで二十三年間継続し、収支の規模も 予定収入は約二千三百万円で、十六年間で事業 を終える計画だったが、実際は大正一〇(一九 の投資を達成しようとしたものである。当初の 資金として、国有林経営の近代化に必要な各種 次のとうりである。 六千万円に及ぶ大事業になった。その成果は'

車道・木馬道・牛馬道開設 二三八〇㎞ 軌道開設 森林鉄道開設 苗畑設置 砂防植栽 天然成育 步道開設 三〇・二万加 |〇||四月 五·四万h 七・六千ね 三五二㎞ 四〇畑 七十加

> ようである。批判には三つの立場があった。第 なり厳しい批判もあり、政府は対応に苦心した

一は、国有林経営が確立することにより農民の

森林買上 貯木場設置

二四三〇町

もので、

伐をもたらし木材市場を圧迫する危惧に発する する。第二は、不要存置林野の処分が林木の乱 制度革新論」(明治三〇)の主張がこれを代表 対する憂慮に基づく意見であり、辻影洲「森林 入会慣行がますます厳しく締め出されることに

特別会計法を審議した貴族院での武井

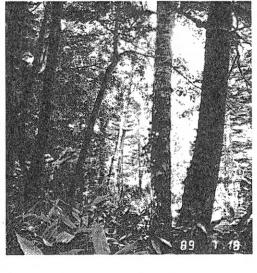
三七〇町

ほかに、森林総合研究所の前身に当たる目黒試  $\mathbb{H}$ 良

験苗圃の設置などがある。 業経営にとっての形式的要件たる施業案が整備 これらの事業の結果、国有林では、近代的林

としても大きな役割を果たすことになった。 されただけでなく、林業生産のための森林資源 林局・署と改称)は、地域経済を支える事業体 大・小林区署(大正一四《一九二五》年から営 伐出量も次第に増加し、国有林地元の山村では、 基盤や資本装備が大いに充実した。そして木材 もっとも特別経営事業が発足した当初は、か

段階では、 組もできあがるはずだ。特別経営事業の当初の 徒らに無用の長物になっている。計画を先行さ ツ直輸入の経営管理技術の導入に対して伝来の 守正の反対論がこれを代表する。第三は、ドイ これを批判したわけである。 いでいたので、土倉らは民間林業家の立場から まず造林を進めてゆけば、おのずから経営の枠 せるよりも、吉野林業のように定まった手法で 経験に照らすと、折角立派な施業案が編成され 在野の林業技術(その代表は吉野林業の技術) ても現場の小林区署長は活用のすべを知らず、 れる。土倉らは次のように述べている。従来の の立場から反発した言論で、これは土倉庄三郎 中村弥六「林政意見」 政府はとくに施業案編成に精力を注 (明治三二) に集約さ



北海道夕張署管内の天然林

日本全体に空前の造林ブームが起こる。またこ なった。 する経営事業体として覇権を確立した。そして 財産備蓄的性格を濃くするようになった。こう 様に在野の林業家の場合も、 増している。このような投資充実の方向は、 係は三・六倍、 などの生産基盤投資に力を入れはじめた。前述 軌道に乗った。そこで政府は、造林や林道開設 の頃になると、国有林の施業案編成業務も漸く て直接間接に、さまざまな刺激を与えることに 国有林経営の展開が、 して国有林経営は、 になると彼らは急速に寄生地主化してゆく。同 治後期は豪農が活躍した時代だったが、大正期 **倉らの意見とも合致するものだった。他方、** の投資の実績を当初計画と比較すると、造林関 けれども、日露戦争の勝利が契機になって、 森林土木関係は一四・六倍と著 独自の技術と作業組織を擁 民有林経営の発達に対し 次第に活力を失い 明

半ばに機械製材が大いに発達し、

鉄道輸送の普

するためである。しかし主な理由は、三十年代

伐採・製材の直営によって財政収入をふやした及とも相俟って木材市場が急速に拡大したので、

い、という点にあった。

業化を進めている。 業案の編成を手始めとして、経営の近代化・企なお御料林でも、ほぼ国有林と併行して、施

## 二、国有林材の市場開発



ままに、立木処分によって収益を挙げる方法が明治前期には、国有林の経営体制も整わない

新への関心が高まったのに伴い、更新を確実に切られ、その後は立木処分の時代が続いた。さて政府は、特別経営事業が緒についた明治さて政府は、特別経営事業が緒についた明治三八(一九〇五)年から、にわかに直営伐採を三八(一九〇五)年から、にわかに直営伐採を三八(一九〇五)年から、にわかに直営伐採を三八(一九〇五)年から、にわかに直営伐採を三八(一九〇五)年から、にわかに直営伐採がとられた。十年代の初めには政府の直営伐採がとられた。十年代の初めには政府の直営伐採が

国有林からの出材はほとんどが天然林材であり、市場に馴染みのない樹種・材種が多い。明り、市場に馴染みのない樹種・材種が多い。明ら、市場に馴染みのない樹種・材種が多い。明治中期には、政商的性格の濃い産業資本家に対は、あまり恣意的な処分ができなくなった。そこで、天然林材を有利に販売するためには、できるだけ最終消費形態に近づけて消費者の理解をえることが必要になる。すなわち市場開発・をえることが必要になる。すなわち市場開発・をえることが必要になる。すなわち市場開発・をえることが必要になる。すなわち市場開発・をえることが必要になる。すなわち市場開発・をえることが必要になる。すなわち市場所が表している。

わった。そのうち直営伐採の割合は、三八年に正一二(一九二三)年以降は二〇〇万㎡を上回に大正五(一九一六)年以降一四〇万㎡を、大に大正五(一九一六)年以降一四〇万㎡を、大に大正五(一九十六)年の川村の伐採量は、明治三一(一九九八)年の

戦前を通じて立木処分が主体だった)。
○%代に、さらに大正一(一九二二)年から六○~五○%代に、昭和七(一九三二)年から六○~五○%代に、昭和七(一九三二)年から六○~五○%代に、昭和七(一九三二)年から六○~五○%代に、昭和七(一九三二)年から六○~1

林道開設が進んだのも、直営伐採の進展と結びついている。明治三八年以前は開設量も少なく、種類別には車道・牛馬道が圧倒的に多かった。しかし直営伐採が進むにつれて、木材搬出の能率が悪いこの種の輸送路は、次第に軌道がいし鉄道に切り替えられた。三九年は、軌道がいし鉄道に切り替えられた。三九年は、軌道が四四%、鉄道が四%を占めている。森林鉄道が四四%、鉄道が四%を占めている。森林鉄道が四四%、鉄道が四%を占めている。森林鉄道がの各伐採地点から丸太を貯木場へ集結するうえで、国有林の地形や伐採規模・経費などの点えで、国有林の地形や伐採規模・経費などの点えで、国有林経営では最も重要な資本装備だった。なお鉄道では、青森の津軽森林鉄道や高知の魚梁瀬鉄道が有名である。

を獲得するようになったのは、直営伐採と官営た青森のヒバや高知のモミ・ツガが広く市場性に相当する。従来は地元以外では用途のなかっ二万㎡に達した。この量は、直営伐採量の二割二万㎡に達した。この量は、直営伐採量の二割どに十四工場が設立された。いずれも当時としどに十四工場が設立された。いずれも当時としどに十四工場が設立された。いずれも当時としどに十四工場が設立された。いずれも当時とし

残りの工場も廃止処分してしまった。 残りの工場も廃止し、さらに一三(一九二四)年に 製材の功績といってよい。ただし官営製材は、 製材の方に、三(一九一四)年に東北地方の五 に立を理由として反対運動が勃発した。たまた に立を理由として反対運動が勃発した。たまた に立を理由として反対運動が勃発した。たまた に立を理由として反対運動が勃発した。たまた に立を理由として反対運動が勃発した。たまた はもっともといえる。そしてまず秋田で、民業 に立を理由として反対運動が勃発した。たまた はもっともといえる。そしてまず秋田で、民業 というに、 で、政府は、三(一九二四)年に 製材所を廃止し、さらに一三(一九二四)年に

有林と同様に、大正初期に廃止された。 有林と同様に、大正初期に廃止された。 有林と同様に、大正初期に廃止された。 大〇六)年以来、森林鉄道の発達には目ざましいものがあった。木曽川の流筏は尾張藩の当時 がら有名だったが、増加した伐採量を流送では 処理し切れないので、鉄道(中央西線)輸送に 処理し切れないので、鉄道(中央西線)輸送に のである。これに伴って直営伐採事業も拡張されたのである。これに伴って直営伐採事業も拡張されたのである。これに伴って直営伐採事業も拡張された。 本語学の製材工場も二ケ所設置されたが、国 なお御料林の場合は、木曽谷を中心に経営事

により、木曽ヒノキの声価が全国的に確立した消費地と直結し、しかも販売先を拡大したこと丸太の輸送販売を積極的に行ったことである。の名古屋・東京・大阪に貯木場を設置拡充して、の料林の経営活動で注目されるのは、消費地

である。 安定し、経営を支えるうえで大きく寄与したのだけでなく、用途の少なかったサワラの販路も

# 三、大正末・昭和初期の国有林



特別経営事業による造林面積は、毎年一・五 ・二万町の水準にあったが、大正五(一九二六) ・二万町の水準にあったが、大正五(一九二六) ・二万町の水準にあったが、大正五(一九二六) を起こしたことが、背後の事情である。この失 き起こしたことが、背後の事情である。この失 とがに予算が大幅に縮小したことから、従来の ために予算が大幅に縮小したことから、従来の ために予算が大幅に縮小したことから、従来の が誇大に宣伝されて現場を惑わす、といった事 が誇大に宣伝されて現場を惑わす、といった事 態も招いた。択伐作業や天然更新への傾斜はそ の著例である。

な施業思想だ、という批判が寺崎渡らによっては森林の自然法則を理解しない形式的・機械的で彩を占めていた。これに対し、皆伐人工造林作業種別面積比は、皆伐作業が圧倒的に多く七年であているが、大正八(一九一九)年当時の国有林は、施業案編成の指針として「作業種」

年には三三光に達している。

年には三三光に達している。

年には三三光に達している。

年には三三光に達している。

年には三三光に達している。

年には三三光に達している。

ったが、国有林としては、特別経営事業によっの町村有林への統一を促進することが主目的だ始まったこの事業は、周知のように部落有林野に言及しておきたい。大正九(一九二〇)年に場を与えたものとして、公有林野官行造林事業さて、この時期の国有林に新しい事業活動のさて、この時期の国有林に新しい事業活動の

ておきたい。労働者の存在形態に最も強く影響 東日本では自家農業との兼業が多く、西日本で ともに戦前を通じて肉体労働への依存度が高か では木馬や橇が使用される程度で、伐採作業と 大きな役割を果たしたわけだが、山元の小運搬 と軌道は丸太輸送を流送から陸送に転換させる 置化の動向である。この点に関して、森林鉄道 するのは、伐出・運材を中心とする機械化・装 組織に依存せざるをえなかったのである。 手した当時は直傭を原則としたようだが、事業 を請負う、という形が多かった。直営伐採に着 形態は一向に近代化せず、庄屋制とか釜前制と れにしても労働力は買手市場だったから、雇用 は相対的に林業専業が多かった。しかし、いず 力が存在していたという事情がある。労働者は、 った。その背景には、山村には常に豊富な労働 を実際に運営するとなると、民間の旧来の労働 いわれる前近代的な労働組織が営林署から作業 ここで、戦前の国有林労働者の状況を略述 そし

少なくなかった。

析出される労働力に依存することが多い。そし 協調を図ろうとする政策指針を受容するように 労働力確保の手段というだけでなく、もう少し 多少の制肘は受けるわけである。だから、単に れた。ただしそれによって国有林経営も施業上 ヲ有スルモノ」の委託林への編入を推進したの 慣行ナリシ地元ノ林野ニシテ地元ト密接ノ関係 されていないが「従来国有林野ニ林産物ヲ仰グ 打ち出された。すなわち、「格別の契約は交わ の通達によって、にわかに積極的活用の方向が 的だった。しかし大正九年の「委託林設定方針 ているが、大正中期までは運用がきわめて消極 託林制度は明治三二年の国有林野法に規定され た具体的方策が、委託林制度の拡充である。委 阻止することが望ましい。そのために推進され ためには、地元の村落組織を温存し農民分解を る。従って国有林が労働力を安定的に調達する て労働組織は、村落共同体の結合と密着してい なったことも、無視できない。 広い意味で、国有林が地元山村経済の運営との この組合を通じて国有林への出役を義務づけら して地元の村落は、多くの場合、多くの場合、 である。その結果、大正九年に二千m余りだっ 委託林設定と同時に保護組合の設立を慫慂され た委託林は、昭和七年には六万mを超えた。そ 他方、造林作業は、 地元山村の兼業農業から

慌によって破綻に瀕した農山村経済を救済する昭和七年の簡易委託林制度の創設は、農業恐

てこれらの古い雇用形態が持続した結果、

事業



宮崎県飫肥の国有林

度として一般大衆に開放したという点で、その 利益をもたらしたわけではないが、国有林を制 は、山村の人びとに対してさほど多くの実質的 林野の大部分が簡易委託林になった。この制度 四八万mに達し、青森・秋田両営林局では管内 の保護義務を軽減し、委託期間も一年単位にし 産物を林野副産物に限定する一方で、地元住民 態ニ依リ其ノ保護ヲ委託スル必要」がある場合 意義は大きかった。 の設定面積は、 て設定の便宜を図ったものである。簡易委託林 地域振興に力点がおかれていた。これは、 ためのもので、国有林の経営戦略というよりも に設定できることとし、また国有林が譲与する の慣行を条件とせず、単に「地元住民ノ生活状 昭和一三 (一九三八) 年には一

の製品が約三分の一を占めた。 年には四・二万㎡に達しており、 大阪に設置された。販売量は、一五(一九四〇) ○(一九三五)年に国有林産物販売所が東京と 広葉樹製材品の販路の拡大をめざして、 その利用開発を図ることが主目的だった。なお 七に達した。これは、択伐作業への転換によっ だ一九だったが、その後急増し、一二年には七 よる小規模の簡易製材所は、廃止を免れて存続 て直営伐採の中で広葉樹の比重が増したので、 した。その数は、昭和六(一九三一)年にはま ように民業圧迫の理由で廃止されたが、水力に いて簡単にふれておく。官営製材工場は上述の 最後に、この時期の国有林材の市場開発につ そのうちブナ 昭和

## 四、戦時統制下の国有林



昭和初期の林政は、木材価格の下落に対処するために、米材の輸入や樺太材の移入を抑制して市場を安定させることと、恐慌により危機に悪いた。しかし満洲事変以後、日本の経済が重工理化を通じて建て直すこととに主眼が置かれて理化を通じて建て直すこととに主眼が置かれて、業中心に再編されるにつれて木材需要は増大し、需給逼迫の様相を呈しはじめた。とくに十年代に入り、中国との戦争が泥沼化して戦時経済が重工に入り、中国との戦争が泥沼化して戦時経済が重工に入り、中国との戦争が泥沼化して戦時経済が重工に入り、中国との戦争が泥沼化して戦時経済による生産力拡充が国策として登制への移行が避けられない情勢になると、一転和初期の林政は、木材価格の下落に対処するために、米材の輸入や樺太村の移入を抑制して統制経済による生産力拡充が国策として登制への移行が避けられない情勢になるという。

である。 である。 である。 そのためには、従来ばらばらだった民有林の である。 である。 である。 でのだ、昭和一四(一九三九)年の改正森林法 による施業案監督制度である。 そして施業案の による施業案監督制度である。 そして施業案の による施業案監督制度である。 そして実施され たのが、昭和一四(一九三九)年の改正森林法 による施業案監督制度である。 そして実施され たのが、昭和一四(一九三九)年の改正森林法 による施業案監督制度である。 そして実施され たのが、昭和一四(一九三九)年の改正森林法 による施業案に がある。 といるに が、によるに 満れば森林資源の管理体 である。

国有林は施業案によって計画的に経営されてい対照的に国有林のあり方も爼上にのせられる。ところで、民有林の生産の計画化が進むと、

なお増伐は主として直営伐採によって実行され て一五年から標準伐採量を超える増伐に踏み切 内輪に抑えてきたが、このような世論に押され と、これまで民有林は国有林の三倍以上に達し 保有する森林蓄積に対する伐採量の割合をみる 従って市場対応のための臨時の伐採は、まず国 正森林法による施業案が励行されれば、民有林 て増伐を要求する根拠に使われた。国有林は従 ている。この数字も、木材業者が国有林に対し 有林が引き受けざるをえなかった。そのうえ、 からは計画量以上の伐採はできないはずである。 国有林は増伐要求に曝されることになった。改 た。この年の伐採量は一二年の三割増だった その結果、国有林は木材生産の至上命令へ 方、木材需給が逼迫の度を増すにつれて、 一七年になると八割増と飛躍的に上昇した。 実際の伐採量を施業案の標準伐採量よりも

> ってよい。 律的な経営事業体の姿は完全に失われた、といない状態に陥った。昭和十年代の後半には、自の対応に忙殺され、跡地の更新まで手がまわら

なお増産を強行するためには、国有林経営のた。

## 五、戦後国有林経営の出発



しかしこの間、国有林経営の枠組には大きなの不足から山元に滞貨していた丸太や薪炭を搬出し、戦災復興用材や家庭燃料に充てることだけに終始した、といってよい。 昭和二二(一九四七)年頃までは、戦時中と同様に政府による民生安定の要請に対応すった。昭和二二(一九四七)年頃までは、戦時中に輸送力り組まねばならなかったのは、戦時中に輸送力り組まねばならなかったのは、戦時中に輸送力り組まねばならなかったのは、戦時中に輸送力り組まればない。

林政統一は、農林省が管轄してきた都府県所別会計制度の採用とである。

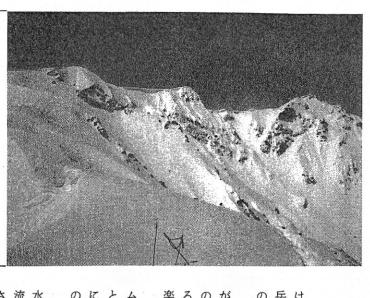
変化が生じた。すなわち、林政統一の実現と特

した。 移管問題が時折論議されたが、具体化に至らな 営を担当してきた。その後、一方では拓殖事業 省から内務省に移管され、道庁が直接の管理経 合併したものである。北海道の国有林は、明治 り、さらに二四(一九四九)年に林野庁に昇格 きた農林省山林局は、外局としての林野局とな たこれに伴って、これまで林野行政を主掌して 解決するに至った。二二年に、まず御料林、つ 省の解体を指示したところから、問題は一挙に 化政策の一環として、皇室財産の国有化と内務 かった。ところが戦後、アメリカ占領軍が民主 近代化が進む過程で、大正初期から農林省への が軌道に乗り、他方では府県の国有林で経営の 道国有林二四五万ha、 在の国有林四一七万㎞と、内務省管轄下の北 いで北海道国有林の農林省移管が決定した。ま 一九年に、道内拓殖の一環として当時の農商務 及び御料林一三〇万ねを

林政統一に伴って、特別会計制度もさほど問題もなく国会の議を経て成立した。昭和初期には、国有林経営の剰余金が政府の一般会計に吸は、国有林経営の剰余金が政府の一般会計に吸い上げられて、経営の充実のために使えないことが多く、これが原因になって山林局の林業技とが多く、これが原因になって山林局の林業技とが多く、これが原因になって山林局の林業技いたが、この懸案もいちおうの解決を見たわけである。

したのである。
(つづく)的に経営組織と事業体制の整備に向かって出発くに拡大した林野を対象に、二二年以後、積極のに経営組織と事業体制の整備に向かって出発

# 水は何処にある



谷川岳。雪の多い年だった。 三月はじめ、西黒尾根から望む

### 観 天 望 水

のを、十年余りつづけていた。 岳、ゴールデンウィークに上越の巻機山に登る は毎年、二月下旬前後に群馬・新潟県境の谷川 夏が終わったばかりに雪の話で恐縮だが、

楽しみにするようになった。 るのか、不足するのかを、ひそかに占うことを の年の利根川の水、つまり東京の夏の水が足り が、年を重ねるにつれて私は、この山行で、そ たまたまパーティに加わったのがきっかけだ

と思った。 みることで、 という予測が、水資源関係機関の発表で、新聞 される。だから、谷川岳や巻機山の雪の状況を 流れは、上越国境の山の、雪融けの状況に左右 水事情を予測する第一のポイントになる。その の予告が出ることもある。 に出る。ダムの貯水量が不足して、早くも警戒 ムは満水状態、今夏の東京の水は大丈夫」など 春の利根川の流れ、貯水量は、首都圏の夏の 毎年四、五月ごろになると「利根川水系のダ 東京の水事情を占うことができる

私

の上に半分ほど顔を出している。積雪は三メー 根から突き出たベンチレーターのパイプは、雪 になるのじゃないかと思う。 トルくらいか。もうひと荒れ来ないと、雪不足 いわお新道との合流点にある避難小屋の、

雪が降らなかったことを示す。

は、天候が安定していて、大事な時期にあまり 夜は雪見酒としゃれ込んで楽しい。そんなとき る。雪がしまっているときは、快適に歩いて、 厳冬期である。天神尾根を登って、テントをは

られなくても、これが普通の気候なんだ、と妙 屋のパイプも雪の下で見えない。頂上はきわめ という恐怖にさらされる。そういう年は避難小 悩まされ、テントごと雪に埋まるのではないか に安心したりする。 ひどい年は、吹雪の中、胸までのラッセルに

でも頂上直下の避難小屋は、まだ雪に埋まって 状況がわかる。巻機山は利根本流の矢木沢ダム り、ほぼ天気もよく、雪は落着いている。それ いる。その埋まり具合をみると、その冬の雪の 五月はじめの巻機山は、マンサクが咲きほこ

松

澤

二、三月というのは、谷川岳は最も雪の多い

(ジャーナリスト)

の水源である。

流出量を予測してみる。 比較的低温がつづき、雪も多い、などと今後の ろう、無効放流も多かったろう、とか、今年は が融けて、ダムは満杯でもあとがつづかないだ 今年は四月に高温がつづいたから、一挙に雪

カ月間の変化をみて、素人予測に確信をもった 帰りの車中から谷川連峰の山ハダを眺め、二

作業にかかった。 を予測する。昔は、雪形をみて、地元の人は農 先をいそぎたくなる。雲や風の流れをみて天気 西にレンゲ雲が浮かび出すと、天気は下り坂だ。 数日かけて山登りをすると、天気が気になる。

きたい。 ういう気持で、これからも利根川の水をみてい とで、人間は生きのびてきたのではないか。そ は、ひそかな水の占いを〝観天望水〟と名づけ は天候予測の有力な手段だ。これにならって私 から受ける自然のシグナルを、敏感に感ずるこ 科学技術の発達した今日でも、『観天望気』 科学的予測はもちろん大事だけれど、五感

### 水 0 賦 存

った雨や雪で、すべてまかなわれる。 る川はないので、生活に必要な水は、 もとに、 では、毎年、日本の国土ではどのくらいの水 日本のような島国では、隣の国から流れてく 人間は生活に必要な水を得ている。 -雨や雪となって地上に降った水を 国土に降

が得られるのだろうか。

ではない。ここでは、降水量から蒸発散量---る量とでもいおうか。すべてが利用できるわけ 与えられる、天からさずかる、という意味だか うむずかしい表現をとっているが、「賦」とは、 てしまう。損失量も山と平地、 海岸に降った雨はアッという間に海へ流れ出し のと平地や海岸では、利用価値は大いにちがう。 ら、賦存量とは天からさずかって国土に存在す 量調査をしたことがある。賦存(ふぞん)とい つまり損失量を差し引いた量として求めている。 ひと口に降水量といっても、山地に降ったも 一九七五年に、国土庁水資源局が水資源賦存 南と北ではちが

ミリ、平地部は五六○ミリ、 る。 実測値をもとに、地域ごとに定めて計算してい れぞれ七〇〇ミリ、九八〇ミリというように、 損失量は、例えば北海道の山地部は年四〇〇 九州・沖縄ではそ

作られているか計画調査中の流域、②ダム建設 よってちがうので、次のように区分している。 三類とする。 ない①②以外の山地、に分け、一類、二類、 の構想をもっている流域、 れるうちに浄化される。これを①すでにダムが にも適していて、下流で反覆利用でき、川を流 森林に掩われ、流況もよく、水質もいい。取水 また資源としての水の価値は、 山地部(A級)=マクロにみると山地は ③ダム建設が容易で 地域の状態に

> まう。 三類は臨海都市で、降水の多くは海に流れてし 二類は内陸の中間都市、 ち一類は田園地帯。B級では最も良好な地域。 水質もよくない。流況も山地より劣る。このう すんで、山地に比べて水の開発は容易でなく、 水質は一層悪くなる。

用、 水ダムがあるか、作れる地域、二類はそれ以外 とする。 (三) 開発の条件は最も悪い。このうち一類は利 沿岸部(C級)=すぐに海に流出し、

のようになっている。 量は、平水準(過去一八年間の通年平均)表Ⅰ 以上のように分けた全国の等級別水資源賦存

あることがわかる。とくにA級三類が三○%を われた山地が、水資源の面からも大事な地域で め、国土に占める面積も広いけれど、森林に掩 全国的にみるとA級(山地部)が七○%を占

### (平水年) 表I

		(単位:億	㎡/年,%
		賦存量	全国比
	1 類	953	21. 2
A 級	2 類	805	17. 9
(山地部)	3 類	1, 350	30.0
	小 計	3, 108	69. 2
	1 類	712	15. 8
C 級	2 類	46	1. 0
(平地部)	3 類	62	1. 4
	小 計	819	18. 2
C 級	1 類	. 19	0.4
(沿岸部)	2 類	547	12. 2
(107-00)	小 計	567	12. 6
全	国	4, 494	100. 0

平地部 (B級) =人工的な土地利用がす

33. 3

45. 5

28.1

29.9

27. 2

28.4

33.0

23.1

20.3

22.6

30.0

0

級

計

56. 9

75. 7

70.6

65. 1

65. 8

73.3

78.0

77.5

76.1

61.9

0.4

69. 1

В

0.4

0.7

0.8

2.6

0.9

1.7

1.8

0.3

0.1

0.6

0.4

1. 0

類 2 類 3 類

25.0

18.5

15.9

24.6

14.4

12.4

11.2

6.8

8.3

11.6

2.0

15.8

1

級

0.5

0.6

0.8

3.8

1.7

1.9

1.4

1.0

1.0

1.1

1.4

0

計

25.9

19.9

17.6

31.0

17.0

16.0

14.4

8.1

9.5

13. 2

2.4

18.2

С

類

0

0.1

0.1

0.7

0.2

0.2

0.8

1.4

0.8

9.5

0.4

と、表Ⅱのようになる。

0

2 類

14.1

4.3

11.7

3.8

16. 4

10.5

7.2

13.5

13.0

24.0

87.7

12.2

1

級 計 14. 1 4.4 11.8 3.8 17.2 10.7 7. 5 14.4 14. 4 24. 8 97. 2 12.6

 $\pm$ (注) 関東には, 山梨, 長野を含む。

北

東

関

北

東

近

中

四

九

沖

全

海

北 (日本海側)

北 (太平洋側)

道

東

陸

海

畿

 $\pm$ 

玉

州

縄

### 表Ⅲ 水系別平年水資源賦存量

A

2 類 3 類

10.8

14. 2

20.7

6.9

18.0

25. 5

20.9

30.5

24. 1

18.9

17.9

0

類 1

15.9

16.0

21: 7

28.3

20.6

19.4

24. 0

24. 0

31.7

20.3

0.4

21. 2

(単位: km², 億㎡/年)

-l. 97	流	域 面	積	賦	存	量
水系	合 計	A 級	B 級	合 計	A 級	B 級
石狩川	14, 327	9, 763	4, 564	129	92	37
北上川	10, 147	7, 550	2, 597	121	79	42
信濃川	11, 984	9, 087	2, 897	162	124	38
利根川	16, 865	7, 684	9, 181	151	80	71
木曽川	8, 916	7, 714	1, 202	195	171	24

が八八%も占める。沖縄の水事情が、どんなに 苦しいかわかる。同じように島の多い九州もC れの島ではほとんどC級二類の水だから、それ ているわけだ。そしてB級も二・四%。それぞ A級一類がわずか○・四%。これを南部に送っ 前回のはじめに書いた北水南送の沖縄では、

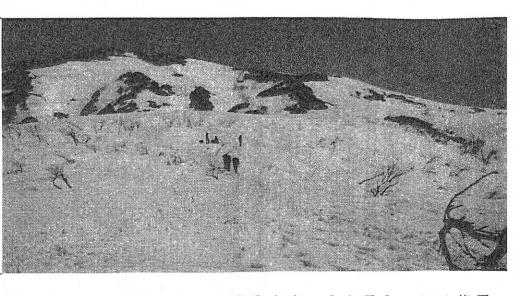
があるので、等級別賦存量の比率で比べてみる よって大きな差がある。地域の面積に大小の差 、地域に

	水資源	原使人	用率	(単位:%)
			1983年	2000年
北	海	道	13	16
東		北	26	30
関		東	54	66
東		海	17	21
北		陸	22	25
近		畿	36	43
中	山	陰	17	19
玉	山	陽 .	34	39
	計		27	32
四四		玉	18	22
+	北九	州	40	49
九州	南九	州	16	19
ות	計		23	28
冲		縄	20	31
全		玉	25	30

																		表IV	渥	水年	水賦存量	に対する
を	る B と 級	利	A 級	中		は	四	L	る	ん		平	田	海道	国		級		水資	源使	用率	(単位:%)
をまか	と級あ	利根、	級の	で、	主な	他の	九%、	てみる	から、	でい	との	平地農村	田園地帯	道、	四四	A級水資源が多い	二類				1983年	2000年
	位でで	北	流	流	水	تنك		る	2	7	地	反村	帯	東北	国だ	水	が	北	海	道	13	16
5	でせ	上	域	域	水系別	0	2	٤	_	`	域	0	0	北	だ	資	_	東		北	26	30
なう利根	· 7	کے	だ	域面積	別	地	0		県	両	区	比	賦	日	が	源	四%	関		東	54	66
根	神利奈根	北上と利根	け	槓	0	域	分	A 級	二県を除	両県は	地域区分の	比率が	存	日本海		が	%	東		海	17	21
川るの	余 根 川 川	根川	それ	で	<b>斯</b>	4	奶	松の	陈い	は	の見	かタ	重が	<b>一側</b>	A	3	も	北		陸	22	25
水	川県を除川は四位	は	流域だけをみると、	みると利根川	賦存量をみてもわ	の地域と比べ	の分B級が	の占める割合はず	た	山地が	関東	多い	賦存量が多	LHI	<b>**</b>		ある。	近		畿	36	43
なは、	を四	四	لخ	لخ	を		四	8	関	が	た	2	い	近	類	のは東北、	0	-	山	陰	17	19
, 1	を除く	四位		利	み	ても特異だ	五	3	東	1	は	7	0	近畿	5	東		中国	山	陽	34	39
それ	くだ	15	石狩	根	7	特	五%と高	割	地	0		٢	は	0	な	北				#	27	32
れ	関が	なる。	狩	111	0	異が	놑	台は	万	%	山梨、	Th	北	14	5	古		四四		玉	18	22
ほど良質で	関東の B	3	层	が第	わか	150	向し	はず	七月	시	米、	致する。	供省	の三地域	立	東海		九	北	九州	40	49
自	水級	舖	信濃	70	る。		ts	2	だが	士	長	2	上	17	均	114		州	南	九州	16	19
質	のだ	存	,	位			なる。	卡	け	占	鄞	0	関	す	以	近		711	1 :	H	23	28
で	松の大切	賦存量は	木曽	だ	表Ⅲ				を	%以上を占めて	長野県-		北海道と関東で、	にすぎな	上	近畿、		冲		縄	20	31
ははな	水の大部分級だけをみ	は A	買	が、	川の		これ	って	関東地方七県だけを抽出	てい	も含		C.	61	A級三類となると平均以上は北	中		全		国	25	30
- ,									-					0								

の 差 言いすぎではあるまい。

16



近で。雪は一m余りか。 5月はじめ、巻機山の八合目付

になる。

○○○年には関東が六六%、北九州で四九%
一の○○年には関東が六六%、北九州で四九%
一昨年、国土庁が策定した全国総合水資源計
一昨年、国土庁が策定した全国総合水資源計

降水量の少ない年でも、使用量はそれほど減らせないから、渇水年を対象としているのだが、らせないから、渇水年を対象としているのだが、水の賦存量からみると、首都圏の一極集中は、水の賦存量からみると、首都圏の一極集中は、水の賦存量からみると、首都圏の一極集中は、水の賦存量からみると、首都圏の一極集中は、水の賦存量からみると、方とか、日本海に流れると賦存量の水を持ってこようとか、日本海に流れるにが、の域が、質とも最も悪いところに人間が集まり、おいば、対域が、大いのでは、

ないか。

されは、水の需要量に開発供給計画を合わせて需要抑制の計画を樹てるのが順当ではようとする考えから発するもので、地域性の強ようとする考えから発するもので、地域性の強いが、

### 水共同域

主要な水系(単一または複数)の係る流域を一まえて、国土庁の水資源基本問題研究会は、八まえて、国土庁の水資源基本問題研究会は、八まえて、国土庁の水資源基本問題研究会は、八まえて、国土庁の水資源基本問題研究会は、八まえて、国土庁の水資源が限界に達する――と、関東は間もなく水資源が限界に達する――と、

――と記している。
帯性を育むことによって、賢明な水利用を図るに連帯関係のある地域(水共同域)における連中心として、歴史的、社会的、あるいは経済的

さらに、

考え方から脱却すべきである――ともいっていき地域計画に反映させることをはじめとして、需要面でも節水、水使用合理化をすすめるとともに、限られた水を効率的に利用するシステムを創造することが必要である。そして水資源量需要に応じて必要な開発が可能であるとするる。

つごろから出てきたものだろう。水はいくらでも降ってくる、という思考はいてれは重要な警告だと思う。

習も生まれた。

習も生まれた。

雪形をみて農作業にかかる慣が生まれ、限られた水をどのように効率的に使があった。だから地域での水の共同管理の制度があった。だから地域での水の共同管理の制度があった。だから地域での水の共同管理の制度があった。

では、 で、地域でとの、 本う一度、 森林に 権われた山地を ふりかえっ で、 地域でとの、 年でとの自然の営みに目を向 で、 地域でとの、 年でとの自然の営みに目を向 はることから、 水共同域の思想が定着してくる のだと思う。

(つづく)

# 大井川を訪ねて

ることを表わしているが、その様相は川ごとにる葉は、川が人間の手によっての様々に改変されい。川の人工化という言まも言われたように、日本にはすでに「自然の川」がの第三回の会において、高橋裕先生がいみじくのの第三回の会において、高橋裕先生がいみじくのの第三回の会において、高橋裕先生がいみじくのの第三回の会において、高橋裕先生がいみじくのの第三回の会において、高橋裕先生がいみじくのの第三回の会において、高橋裕先生がいるが、その様相は川ごとにる

かなり異なっている。

今回訪れた大井川は、利水、特に発電用利水と言えるだろう。

と、まさに日本の原風景そのものではないかと豊かな山々と深い渓谷、そして谷底に流れる川さかのぼったのだが、中流域の茶畑、上流の緑川鉄道に乗って、金谷、川根、そして井川まで「の大井川を、蒸気機関車で人気のある大井

に占有的に使われている例を、私はほかに知ら水系の水がただ一つの目的のために、このよう

言っても大きな間違いはないであろう。一つのいわば、大井川の水は発電のために存在するとんと九四・五%にもなる(建設中の分も含めて)。

そして建設中のものも含めるとダム二八、発電 い。多くの問題のもっとも根源的な原因は、現 とはこういうものかとさえ思えてくるのである。 見される放棄された人家や学校を見ると、文明 東京電力と東海パルプ)が発電に使う分が、な 大井川の総利水量のうち、中部電力(一部は、 所一五というこの数字に示されているであろう。 在、堰堤も含めたダムが一九、発電所が一二、 のような感慨を許すような生易しいものではな の人間生活の痕跡や、ダム周辺にバラバラと散 るのである。そして、ダムの底に沈んだかつて やはり人間のいかんともし難い巨大な力を感ず まうという光景が一つ、また一つと現われると ダムや堰堤にたたえられて、動きを止めてし の流れが滞留し、今まで踊っていた水が大きな 思わせるものを持っている。しかし、突如、 しかし、現実の大井川の問題は、旅行者のこ JII

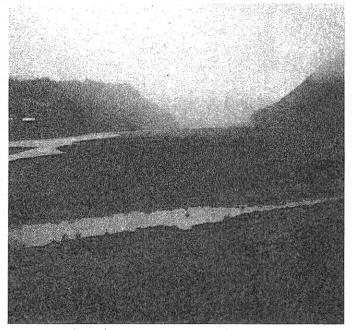
山紀子

秋

まうものらしい。 ということはあるのだが、どうやら大井川の水 は電力会社の魔法の手にかかって、伏流してし こかに消えてしまう、あるいはひどくやせ細る である。川が伏流して、まるで魔法のようにど 部分は四〇・七%にもなる。 "水なし" 大井川、 えんえんと六五・二㎞にわたって、導水パイプ、 われた水は、いったん川に戻されることなく、 大井川の全長は一六〇㎞であるから、トンネル らさらに次の発電所へ― つまり人工のトンネルで次の発電所へ、そこか な帰結をもたらすかは、いわずもがなであろう。 しかも不幸なことには、上流のダムで発電に使 \*川原砂漠\*の大井川と呼ばれるのももっとも このような "集中豪雨的" 水利用がどのよう ―と送られるのである。

川の水が消え失せるとその流域にはどのよう なことが起こるか、ダムの建設者側も、そして ないだろうか。けれども、現在の大井川に起こっている問題を見けれども、現在の大井川に起こっている問題を見る人は、ここに教科書的とも言える答えを見出すに違いない。また、自然とは、川とは、賢い人間が考えているほどには単純ではないということを実感するに違いない。 これらの問題の現われ方で特筆すべきは、上 たれらの問題の現われ方で特筆すべきは、上 ないだろうか。けれども、現在の大井川に起こっている問題を見る人は、ここに教科書的とも 言える答えを見出すに違いない。また、自然と は、川とは、賢い人間が考えているほどには単 は、川とは、賢い人間が考えていることである。 れ方が際立った違いを見せていることである。 私たちが訪れた一番上流は井川であるが、ここ 私たちが訪れた一番上流は井川であるが、ここ

V



けられている。 が境の地として観光で生き延びようと努力が続いたとであるという。現在、大井川の最奥のしたことであるという。現在、大井川の最奥のが進行がはとんど全村が水没し、これが引き金とな村のほとんど全村が水没し、これが引き金となけられている。

もやが減少し、また冬の凍霜害がひどくなり、ことができた。中流域の本川根町、中川根町、この精産の川根茶の生産に大きな影響を及ぼしているとのことで、この問題を中心に現地の方々のるとのことが、この問題を中心に現地の方々のるとのことが、この問題を中心に現地の方々のかもやが重要な役割を果たすのだが、この霧・やもやが減少し、また冬の凍霜害がひどくなり、ことができた。中流域の本川根町では地元の方々に話を伺う中流域の中川根町では地元の方々に話を伺う。

昼夜の気温較差が大きくなり、茶農家は収積量を夜の気温較差が大きくなり、茶農家は収積量をあっていると文句を言うだけではすまされない、予でいると文句を言うだけではすまされない、予でいると文句を言うだけではすまされない、予でいると文句を言うだけではすまされない、予でなりわいを立てである。地域の公害問題や環想を越える深刻さである。地域の公害問題や環想を越える深刻さである。地域の公害問題や環想を越える深刻さである。地域の公害問題や環想を越える深刻さである。地域の公害問題や環想を越える深刻さである。地域の公害問題や環境問題の真髄と本質は、その地域に住み、そこでなりわいを立てている人々にしかわからないということが、ここでも立証されていると感じということが、ここでも立証されていると感じということが、ここでも立証されていると感じという。

てれら三つの川根町の真ん中にある中川根町 では、塩郷堰堤の激しい堆砂で河床が上昇して、 では、塩郷堰堤の激しい堆砂で河床が上昇して、 では、塩郷堰堤の激しい地砂で河床が上昇して、 をある。一方、河川水が減ったために、地下水 位が低下し、上水の断水が度々あるという。な 位が低下し、上水の断水が度々あるという。な にやら、水攻めと渇水が繰り返されるという。な にやら、水攻めと渇水が繰り返されるという。な にやら、水攻めと渇水が繰り返されるというお かしな構図ではあるが、このようなことは決し て稀ではなく、現にもっと大規模なものがアフ てかる。

った環境影響をもたらす。このことを忘れて、のように自然の改変は時として、予想もしなかが、からに自然の改変は時として、予想もしなかのように自然の改変は時として、予想もしなかい。この上流・中流のダムでの予想を越える堆積との上流・中流のダムでの予想を越える堆積

見る大井川の姿なのではないだろうか。 高度成長期に電力の確保に狂奔した結果が今日

私たちが訪れた千頭営林署管内では、大部分を占めているのが水源を守る保安林であり、しかもこのような破砕帯に位置していることから、かもこのような破砕帯に位置していることから、かもこのような破砕帯に位置していることから、約面の崩壊を食止めるために大きな努力がはらわれている。しかし、ダムを取り巻く急峻な斜面のあちらこちらに、岩肌をさらした崩壊の跡を見ることは、やはり心痛むものがある。先にを見ることは、やはり心痛むものがある。先にを見ることは、やはり心痛むものがある。先にを見ることは、やはり心痛がということがよく言われるが、上に述べた様々な環境影響を考えるにつけ、地形を維持し、環境影響を緩和するという森林の価値を改めて深く考えさせられたものであった。

貴重な先駆例となるのではないだろうか。 最後に一言つけ加えておきたいことは、ダムの水利権更新を機として、また地元の人々や県の更新期を迎えつつあるが、地元では大井川をさらに川らしくするために、三〇年の水利権許可期間を一〇年に縮め、また上乗せ放流量を大きくすることを求めている。日本の多くの河川で、くすることを求めている。日本の多くの河川で、がよの水利権更新期を迎えて、水を返せ、ダムを撤去せよとの声があがっているが、大井川はを撤去せよとの声があがっているが、大井川は

【写真・水脈の細い大井川・田中茂撮す】

# 研究会・日本の川を考える③

# 今日の川はいかに作られたか

## 河川改修の歴史を通して

講師高橋

裕(東京大学名誉教授)

会員外一○名 一会員外一○名 大日本山林会会議室

5月17日(土)

# 《高橋裕芝浦工業大学教授の問題提起》

日本の川の特性

の土砂も多く、治水が難しい。
おいうことだろう。しかも、しばしば豪雨が降梅雨、台風があって、洪水の規模も流域面積の梅雨、台風があって、洪水の規模も流域面積のということだろう。しかも、しばしば豪雨が降ということだろう。しかも、しばしば豪雨が降ということだろう。しかもの土砂も多く、治水が難しい。

川でも、河床は地盤より低く、人間はその川よドンのテムズ川でも、ニューヨークのハドソンた所に戦後の高度成長で人口が集中した。ロン盤より高く、洪水の被害を受けやすい。そうしと産業が集まっているため、水害の危機を増している。そこは、河床や洪水水位周辺が地と産業が集まっているため、水害の危機を増しかも、洪水によって運ばれた土砂によってしかも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでも、河床は地盤より低く、人間はその川よいでは、

リスの July にひた子 できっし、から水は侵入してこない。 り高い所に住んでいるのだから堤防が切れても

を入れることになった。
日本の山地は土砂災害を受けやすく、砂防・日本の山地は土砂災害を受けやすく、砂防・日本の山地は土砂災害を受けやすく、砂防・日本の山地は土砂災害を受けやすく、砂防・

地下水の汲みすぎにより地盤沈下も厄介な課地下水の汲みすぎにより地盤沈下も厄介な課題である。特に水不足の年に、水道用水を地下進んだ。東京では二〇年前から規制などの対策進んだ。東京では二〇年前から規制などの対策を施したため、地盤沈下が止まりましたが、そを施したため、地盤沈下が止まりましたが、その教訓は埼玉県には生かされていな地盤沈下が地で、次下している栗橋あたりは、過去の大洪水で度がある。特に水不足の年に、水道用水を地下があずいる地震が下れる地震が下る原介な課地下水の汲みすぎにより地盤沈下も厄介な課地下水の汲みすぎにより地盤沈下も厄介な課地下水の汲みすぎにより地盤沈下も同介な課地下水の汲みすぎにより地盤沈下も同介な課

利根川の堤防はこと一〇年で一尉以上下がっ

た、ということになる。一昨年のおいしい地下水の代金は高いものだっ仮に利根川の堤防が栗橋付近で切れたとすると、ている。一昨年の渇水では一五珍は下がった。

をいれている。
「利水さえ良ければ」治水が困る、といの関係がある。日本は治水に精力を使い、一方の関係がある。日本は治水に精力を使い、一方を関係がある。「利水さえ良ければ」というのでは、利水が

日本の河川は人工化され、自然の川といいえるものはほとんどない。比較的自然が残っているのは、一級河川では北海道の釧路川ぐらいだ。るのは、一級河川では北海道の釧路川ぐらいだ。すで九〇ホーがは短くなっている。イシカリというのは、アイヌ語で「曲がりくねった」という意味ですが、それをバイパスで短絡して短くした。日本の河川は外国の河川と比べれば、極めて多くの人工が加えられている。

にも、利水のためにも多くの手を入れる必要が近畿地方など人口の多いところは、治水のためのも含めて五個もあるのに、「自然の川」といわれるが、川の一部に自然らしさが残っているからでしょうか? 関東平野とか濃尾平野、からでしょうか? 関東平野とか濃尾平野、からでしょうか? 関東平野とか濃尾平野、からでしょうか? 関東平野とか濃尾平野、からでしょうか? 関東平野とか濃尾平野、がは、川田の名が、川の一部にも多くの手を入れる必要が

は日本でも最も工事を行った川である。 あった。木曽三川、 利根川、淀川、筑後川など

い川だった。 山ダムが出来れば別ですが、比較的人工度の低 川は相対的に手が入っていないし、揖斐川は徳 中京工業都市に近い。木曽川に比べれば、長良 洪水と年間を通して水が豊富だからだ。しかも、 たからだ。川の規模は大きいし、雪解け、台風、 に造られている。利水には極めて有利な川だっ 木曽川は、発電ダムがはしごのように連絡的

### 開発と自然の調和

でもそうして課題を一つ一つ解決してきたが、 調和させるかが大きな難問となってきた。今ま 川を自然のまま残すことが要望される時代にな 日本では、川を自然のままで放って置けない。 ばならない。治水と利水のニーズが極めて高い ら、自然の特性に合わせて開発していかなけれ え、自然と開発との調和を求めることが大事だ。 ことは不可能だ。 自然特性に合わせて人工を加 新しい技術がでるごとに、問題は複雑になって マイナス効果も大きくなり、そこで自然とどう ってきているが、多くの川を自然のままで残す 川は道路などと違って、元来自然のものだか 巨大ダムのように技術行為が拡大していくと

ろに作り、洪水は当然なものとして自衛してき ハス・クワなどで稲は作らず、住居も高いとこ ルされるようになったが、一旦発生すると洪 以前は洪水の氾濫常習地帯で栽培する作物は 明治以来の大工事で洪水がかなりコントロ

水は大規模になった。

なかった。ダムや河口堰で水の利用率は高まっ はそれでまた新たな課題を生む。巨大ダムや利 の技術者の役目となってきた。 きたので、その課題を克服するのが、これから たが、生態系や自然の洪水に与える影響も出て 根川の河口堰のようなものはかつては考えられ 課題を克服する為の技術は進歩するが、それ

じ現場に居たから、その間には大洪水を経験で きた。そのことが勉強になった。いまは、平均 出方が分かった。内務省の役人は五~六年は同 きさをみて、川の勾配を知り、石の向きで水の 溜・下水道の透水管、濃尾平野の水防住居と堀 の復旧、都市水害の状況と地下分水路や地下貯 一年で替わるので、現場になじむ余裕が無い。 かつてのベテラン技術者は、川の中の石の大 ◆その後スライドを使い、富士山の大沢崩れ 多摩川水害などの説明を受けた。

### 《質疑・討論》

◇ダムの堆砂率と対策は。 般参加者から出された。 質問は、主として各地で運動に参加している

ため、河口部周辺で海岸決壊問題も起きてい りができると期待している。土砂は下流に流す ているが、将来は浚渫がすすみ、ダムの若返 和ダムで堆砂を取り除く浚渫を実験的に行っ る川もある。 ことも必要で、河川からの土砂供給が減った 天竜川の佐久間ダムや支流の小渋川の美

> ◇ダム放水のやり方、とくに釣りからいっても 濁り対策が必要でないか。

高橋 ダム放流に当たっては、温度により選択 取水がされ、冷温障害がかなり解決されたが、 である。 策などこれからのダムが解決するべきテーマ **濁り対策まで有効な対策はない。富栄養化対** 

◇常願寺川の工事費累積は。

高橋 ◇自然と調和する河川技術は。 調べて無いが、調べてみる価値がある。

ている。 護岸などはかなりの川に見られるようになっ 修(生態護岸)をしたが、遊魚場所を作った 口市の一の坂川でホタルが孵化できる河川改 つかう護岸などの工法が多い。日本では、 スイスでは発達していて、石・土・木を

◇森林の治水・保水機能と効用は。

高橋 右され、実験が出来ないし、公式が立たない。 形、地質、土壌など幾つかの要因によって左 降雨量、木の年齢、樹種、手入れの状況、 でかなりの差がある。 水を出さないなどの効果はあるが、 ろ特徴がある。土砂の流失を防ぎ、 森林の経済効果は計量できないところにむし 効用は一口にはいえない。河川の流出は、 前提条件 一時的に

◇森林の伐採にもっと規制を。

高橋 土砂の流失を防ぐ、水の富栄養化を防ぐ と維持も大切。 能だ。無限的可能性のあるもの。賢明な利田 森林の効果は大きいと思われる。森林は多機

## 森と木のある生活の

頂まで続く草山



ころが、日本でも中国山地や木曽、北上山地な 地・採草地などの草地が大半をしめ、農業の中 北西ヨーロッパにおける農用地をみると、放牧 ど、地形的に隔絶された山村では、最近まで広 で畜産がもっとも重要な部門になっている。と 北西ヨーロッパを「牧場的風土」と定義づけた。 生産が、農業の基幹部門になっていた。 大な草山がみられ、野草を主飼料とした牛馬の 和辻哲郎は『風土―人間学的考察』の中で、

福島町から一三三五メートルの地蔵峠をこえる 多くは、青々とした草山が拡がっていた。木曽 とする木曽五木の森林が多いがこの村の山々の な山村である。木曽といえば、ヒノキをはじめ 木曽の開田村は、御嶽山の東麓にある典型的

> っていた。いまでもその面影をしのぶことがで ろでは一五〇〇メートルまで一面の野草地にな と、山の土地利用は一変する。かつて高いとこ

ていた。田畑の周囲が馬柵で囲いこれまれていまま 田村の放牧場は主として記名共有林野が当てら 放牧場が不可欠であった。草の生長力が弱い中 当たり種牝馬を四頭ずつ飼い、隔年ごとに仔馬 るのは、栽培されている作物を、馬から保護す を終えた田畑においても、馬が自由に放牧され 次大戦後まで維持されていた。このほか、収穫 に対する入会慣行が江戸時代から存在し、第二 れていたが、旧御料林(江戸時代尾張藩有林) 五ヘクタールほどの放牧場が必要であった。開 央高地や東北地方の山地では、種畜一頭当たり て足腰を丈夫にすることが必要なため、広大な 料のみで飼える農耕馬として需要が多かった。 の馬市で販売していた。これが木曽馬で、粗飼 をとり、二歳馬まで育成して、これを木曽福島 牛馬の仔取りをする種畜は、活発に運動させ かつて開田村では馬産が盛んで、農家は一戸

ら降雪まで放牧していた。

### 市 ]]]

(東京学芸大学教授)

刈りに行く九月上旬から降雪のある一○月初旬 うな耕作景観が卓越していたことを示している。 るためのものである。この村にケイト(垣内の 大変なため、堆肥をとるに必要以上の馬は春か かし、多頭飼育農家では、毎日採草する労力が して、堆厩肥をつくるために舎内飼いする。し の二期にわたり、牧場に放牧された。 に五月から田植えがすむ六月中旬までと、干草 意)と名づけられた小字名が多いのは、このよ 夏季放牧が中断されるのは、「馬屋埋め」と称 馬は、春四月作付け前の田畑に放牧し、さら

二へクタール、夏草場一・八へクタール、干草 場六へクタールを必要とした。耕地に対して約 舎内飼いの馬に与えた。 た。最盛期には毎朝三~四駄の草を刈りとり、 田畑を再生産するために、柴地(刈敷山)一・ 一○倍の草地を必要としたことになる。 開田村の農家では、一戸当たり九三アールの 夏草場は朝草場ともいい、個人有地が多かっ

開田村では干草山は刈り干し山ともいい、そ

に のほとんどが記名共有地で、山腹あるいは山頂 のほとんどが記名共有地で、山腹あるいは山頂 のほとんどが記名共有地で、山腹あるいは山頂 のほとんどが記名共有地で、山腹あるいは山頂 のほとんどが記名共有地で、山腹あるいは山頂

用をしてきたのである。

によってこれを駆除することができる。 牧中の馬にとっての天敵がダニであるが、野火りなどの疎林を除くと、木があまり生長していりなどの疎林を除くと、木があまり生長していー目的であった。草山には火に強いカシワやクー目のであった。草山の森林化を防ぐのが第れた。この野火は、草山の森林化を防ぐのが第れた。この野火は、草山の森林化を防ぐのが第れた。この野火は、草山の森林化を防ぐのが第れた。

料は例外であった。木曽馬は胃や腸など消化器や小糠を若干煮て与えたが、このような濃厚飼や小糠を若干煮で与えたが、このような濃厚飼いにもおよんでいる。ここから得られる粗飼料ルにもおよんでいる。ここから得られる粗飼料

できたのである。が発達しているため、粗飼料のみでも充分飼育

姿を消していった。
なお馬産地では厩肥が充分にあったから、森なお馬産地では厩肥が充分にあったから、森の泉がしていった。

ゲツツジが咲く。この灌木は有害で、牛馬が本に変った。その畦畔には春になると真赤なレンった。ここは第二次大戦後開拓されて、蔬菜畑馬県嬬恋村では、かつて広大な馬の放牧場があ馬中本一のキャベツの特産地として知られる群

あった。 能的に食べないために、牧場に繁茂した植生で

### 刈敷山と水田農業



れ、重要な肥料源になっていた。森林国の日本では、古代から刈敷山が仕立てらて、毎春その頭部から芽吹く枝葉を刈りとって、な葉広葉樹を二メートル程度の台木仕立てに育落葉広葉樹を二メートル程度の台木仕立てに育

った。

一次を出山麓では一九五○年代まで、水田肥料がみられたが、利用されなくなってから枝幹ががみられたが、利用されなくなってから枝幹がた。国鉄中央本線の車窓からも、刈敷山の景観として大量に用いられ、カツチキと呼ばれてき

た。開田村のソバが有名で、うまいのは、このた。開田村のソバが有名で、うまいのは、このには一〇アール当たり八〇〇貫(三トン)にもには一〇アール当たり八〇〇貫(三トン)にもには一〇アール当たり八〇〇貫(三トン)にもには一〇アール当たり八〇〇貫(三トン)にもおよぶ刈敷と、さらに同量の堆肥を併せて与えおよぶ刈敷と、さらに同量の堆肥を併せて与えおよぶ刈敷と、さらに同量の堆肥を併せて与えおよぶ刈敷と、さらに同量の堆肥を併せて与える神、刈敷は魚肥や海藻などが豊富に入手できる海、刈敷は魚肥や海藻などが豊富に入手できる海、刈敷は魚肥や海藻などが豊富に入手できる海

キロ)の刈敷を投入していた。 た水田にも三○~五○駄(三三七五~五六二五ような有機質農法に支えられてきたからだ。ま

に、すきこんだものだ。 たというが、水田の表面に刈敷が出ないよう ことがないように」と、親は子供たちに注意し 腹上部の日当たりのよい日向斜面を選んで仕立 敷を、牛馬や人の足で耕土の中に踏みこんだ。 った。長さ二~三尺(六○~九○センチ)の刈 えた水田に、刈敷をすきこむ作業は家中で行な 幾日間も刈敷刈りをしなければならなかった。 あるため、前述の量を水田に施肥するには、十 重労働のため、主として男の仕事になっていた。 てられた。それは柴草の生長を促し、なるべく 早く枝葉を採取して、施肥するためであった。 「秋になって、トンボが飛んできても、とまる 方刈敷を牛馬につけて、山から水田に運ぶの 日の採取量は一五〇貫(五六〇キロ)程度で 刈敷刈りは田植え前の重要な作業で、大変な 開田村の柴山は、ほとんどが個人有地で、 女たちの仕事であった。さらに代がきを終 Ш

た。で、翌年田起しのさいに掘り出して燃料に用いで、翌年田起しのさいに掘り出して燃料に用い稲を生育させたが、枝は一年間では腐らないの稲を生育させたが、枝は一年間では腐らないで、

ところによっては一カ月も早まった。刈敷の新る保温苗代が普及し、田植え時期が二週間以上、用いてきた山村では、冷害を避けて収量をあげの年代にはほとんどみられなくなった。刈敷を第二次大戦後、刈敷の利用は急減し、一九六

なった。

実況調査」によると、「秣として刈取る」原野ーカ〇三年(明治三六)長野県農会の「原野の、洗剤にも広く用いられていた。 事であった。特にクマザサを焼いて作ったアクーが、洗剤にも広く用いられていた。 か、洗剤にも広く用いられていた。 か、洗剤にも広く用いられていた。 か、洗剤にも広く用いられていた。 か、洗剤にも広く用いられていた。 か、洗剤にも広く用いられていた。 した、灰をつくった。これを「灰作り」といって、晩秋の仕 は山林に入り、下草を刈りとって焼き、灰をつ は山林に入り、下草を刈りとって焼き、灰をつ は山林に入り、下草を刈りとって焼き、灰をつ

三万三五七三町歩となっている。一九〇三年と 二七九町歩、「その他」九〇一四町歩、合計二 七万一三二八町歩、「肥料として刈取る」原野 実況調査」によると、「秣として刈取る」原野 数値をはるかに上廻る草山が、長野県下に存在 の統計の精度はあまり高くなく、現実にはこの を加えた草山は二〇万町歩をこえていた。当時 粗飼料と緑肥が採取されていた。これに放牧地 畜産が衰退し始める時期であった。それにもか 路改修により馬車や荷車が普及して、馬などの な採草が困難となり、また平坦部の農村では道 いう時限は、養蚕の発展によって、従来のよう していたと思われる。 かわらず、台帳面で一九万町歩に近い採草地から、 一万二一四九町歩、 一万七三一二町歩、 「樹林を植林する」二万三 「家畜を放牧する」原野

郷谷が耕地化されているほか、中央火口丘から

外輪山に至るまで、大部分が草原になっており、

### 野火がつけられる草山



古都奈良では、毎年一月一五日の夜、若草山に野火がつけられる。これが「若草山の山焼き」に野火がつけられる。これが「若草山の山焼き」に野火がつけられる。これが「若草山がいつっている。二〇ヘクタールほどの若草山がいつっている。二〇ヘクタールほどの若草山がいつっている。、一〇へクタールほどの若草山がいつっているが、その最大の規模をもつのは、九州の阿蘇火山麓の大草原である。世界一のカルデーを守るために、定期的に焼くようになった。とのような草山は、野焼きすることで維持されているが、その最大の規模をもつのは、九州の阿蘇火山麓の大草原である。世界一の力ルデラをもつこの火山は、火口原である阿蘇谷・南の阿蘇火山麓の大草原である阿蘇谷・南の阿蘇火山麓の大草原である。世界一の力ルデラをもつこの火山は、火口原である阿蘇谷・南の阿蘇火山麓の大草原である阿蘇谷・南の阿蘇火山麓の大草山の地震を表している。

園第一の景勝地になっている。 特に中央火口丘の中岳から西方のカルデラに広がる草原は、「艸(草)千里」と呼ばれ、三広がる草原は、「艸(草)千里」と呼ばれ、三広がる草原は、「艸(草)千里」と呼ばれ、三

、改良牧野になったところが八〇〇〇へクタ、あるいはヨーロッパ原産の牧草が播種され第二次大戦後、草原の一部に杉が植林された

して、マスコミがよく報道している。火が放たれる。その風景は春の訪れる風物詩とっている。毎春雪融けとともに、広い草原に野・ススキ・カリヤス・ドシバなどの野草地になールほどある。しかし、草原の大部分は、カヤールほどある。

しまう。
しまう。
しまう。
しまう。
しまう。

阿蘇の草山は放牧地と採草地に分かたれる。 や世で、ともに強健で野草のみで大きいかでからない。放牧されている馬は、アングロのようなどの中半血、牛は肥後の赤牛といわる。種牡同志は優秀な種を残すため闘うことはあっても、異種の草食動物は決しない。からないである。 では、中と馬が仲良な成長していく。

「切り干し刈り唄」である。
「切り干し山」である。九月の彼岸のころから、一り干し山」である。九月の彼岸のころから、一り干し山」である。九月の彼岸のころから、一将草地の多くは、越冬用の干し草を作る「刈採草地の多くは、越冬用の干し草を作る「刈

次大戦後まで、三~四町歩の草山から三〇〇駄歌的な草小屋の風景はみられなくなった。第二たこんにち、草山へは通勤するようになり、牧中がそこに寝泊りして草を刈った。車が普及しかつて草山が遠いと、「草小屋」を設けて、家

ある。 ないために、これを分割して利用できないので 権をもつ集落と入会権をもつ集落の調整がつか 村有、財産区有、区有などさまざまだが、所有 行が存在しているからだ。ここの草山の所有は、 麓の草山が維持されているのは、複雑な入会慣 で刈られている。そのさまは、映画の「アンナ 用いられるようになった。しかし傾斜地ではい りとりには、最近エンジンのついた草刈り機が から、干し草の採取量は大幅に減った。なお刈 ・カレーニア」のシーンを思わせるものがある。 まだに柄の長さが、一・五メートルもある大鎌 し戦後青刈り飼料作物を栽培するようになって (三四トン) にもおよぶ干し草を作った。 採草需要が減ったにもかかわらず、阿堆火山 しか

信州の諏訪湖に接している霧ケ峰はなだらかな 楯 状火山で、三〇〇へクタールの台土が一面の草原になっており、真夏にはニッコウキスゲが咲き乱れる。一四〇〇~二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇~二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇~二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇~二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇十二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇十二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇十二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇十二〇〇メートスゲが咲き乱れる。一四〇〇十二〇〇メートスゲが咲き乱れる。

に分割された。現在では観光開発が進み、高原もつ諏訪市小和田とことに入会権をもつ八集落第二次大戦後の農地改革によって、霧ケ峰を

の各所に施設ができたため、火入れが行なわれなくなった。この結果、高原にはブッシュと灌木が生えて、美しい草原の景観は年々失なわれている。野火がつけられなくなって、草山の植生が大きく変化している事例が各地にみられる。ラグビーやスキーで知られる菅平高原もその好例でビーやスキーで知られる菅平高原もその好例でビーやスキーで知られる菅平高原もその好例でビーやスキーで知られるでリール)の北信牧りタール(現在一六〇〇ヘクタール)の北信牧りまで野火が毎春つけられていたため、カシワ・赤松など火に強い木を除けば野草が優越していた。火入れが中止されてから四〇年ほどで、牧場は天然更新の森林でおおわれ、景観は一変牧場は天然更新の森林でおおわれ、景観は一変り場は大然更新の森林でおおわれ、景観は一変している。

本来農業的土地利用であった草山が、農業の 本来農業的土地利用であった草山が、農業の 本来農業的土地利用であった草山が、農業の 本来農業的土地利用であった草山が、農業の

# 八ヶ岳森林教室報告

を依頼……。 でがートでカブト虫の修理へソ、鳥の四本足。デパートでカブト虫の修理育森林の構想を聞いた。小学生の描くカエルの育森林の構想を聞いた。小学生の描くカエルの

にて出発する。 にている。 にて出発する。 にている。 にてい

たが日程があわなかったようですと米川さん。当初30名の予定であり、問い合わせも結構あっッテ)らが迎えてくれた。受講生は10名とのこと。茅野駅では松沢先生・米川さん(黒百合ヒュ

### 開講式·白駒池

受講生となる)。

八ケ岳総合博物館に移動して開講式を行う。

八ケ岳総合博物館に移動して開講式を行う。

八ケ岳総合博物館に移動して開講式を行う。

八ケ岳の概略を頭にいれて森に入るという意 以にそって大地・水・生物と見学する。大地では八ケ岳が三〇〇万年前にできた比較的新しいは八ケ岳が三〇〇万年前にできた比較的新しいは八ケ岳が三〇という。生物のホールにはいる。八ケ岳を人里近い林(低山帯)・針葉樹林(亜高山帯)・山頂岩場(高山帯)・針葉樹林(亜高山帯)・山頂岩場(高山帯)に分けて展示している。一〇〇種を超える生物。案内板は、ほ乳類・鳥・樹木を色分けしてある。一本の樹木にいる鳥でもエナガ・ヒガラ・キビタキが棲み分けをしているときく。縞枯れという言葉を初めてきく。スペースの無理はあるがこのホールなら半日はいられそうだ。

の共同体を少しでも知ろうと耳を澄ます。というでは、初対面の固苦しさはいなめないが、4日間長野。勤務先は森林組合・森林会社・県・市な長野。勤務先は森林組合・森林会社・県・市な長野・大田ので、東京・山梨・マイクロで麦草峠へ移動。車内で自己紹介。

ギクサ)なら神様お願いしますと一本とってもにはさわらせないが、イワノガリヤス(通称ムすぎて観ようとしない現状。ヤツガタケ○○草先生より最初の講義。とるな・さわるなが効き5分程乗って麦草ヒュッテ到着。昼食後柴田

(長野諏訪地方事務所・会員) 表 保 夫

続いて関先生より雲の話。った体験学習の大切さを説かれたのが印象深い。いいんじゃないか。揉んでみる舐めてみるとい

でなく健脚だ。 様のような人と聞いてきた。布袋様は博識だけ 大木先生を先頭に登り始める。友人から布袋

穫としよう。
ではいのがシラビソという見分を本日の収ります。
の年を超すときく。シラタマノキはコケモモより葉の網目がくっきりしていると比較しつつ登る。目駒荘に到着するまでに30種以上の説明をる。自駒荘に到着するまでに30種以上の説明をおける。レモン・ユズのにおいでオオシラビソ、ウける。レモン・ユズのにおいでオオシラビソ、カナーとさいのがシラビソという見分を本日の収拾が、カナーとさいのがシラビソという見分を本日の収拾が、

んでわかったが今はわからないとの言。らい前までは湖をみれば、崩れる時は色がくすいての質問が多い。白駒荘の辰野さんが10年くい程を生より山の天気について。気象俚諺につ

### 天狗より根石。

太陽が三つ見える――2日目5時20分日の太陽が三つ見える――2日目5時20分日の太陽が三つ見えるとができた。山の太陽はまぶしいだけでなくあたたかいものだと感じる。 7時半ニュウへ向けて出発。地元放送局のカス陽が三つ見える――2日目5時20分日の太陽が三つ見える――2日目5時20分日の太陽が三つ見える――2日目5時20分日の大陽が三つ見える――2日目5時20分日の大陽が三つ見える――2日目5時20分日の大陽が三つ見える――2日目5時20分日の大陽が三つ見える。

ゼニトリゼニトリ、チョリチョリ。日の出前

く中を分けいっていく。えを受く。素敵な彼女来たれ野郎は来るなと鳴か。メボソムシクイ・ルリビタキ・ヒガラの迎後は放射冷却で空気密度が高く声がひろがると

ポスト(糞)が何ケ所か。い。トガリネズミの死骸を拾う。テンのサイン葉の形から名のついたカニコウモリは覚えやす葉の形から名のついたカニコウモリは覚えやす中層湿原にでる。ワタスゲが露にぬれている。

峠へ向かう。・雲海・ビーナスラインと横一線に並ぶ。中山・雲海・ビーナスラインと横一線に並ぶ。中山2時間でニュウを仰ぐ。青空から北アルプス

登山道には、足場・道案内・ロープなど山小登山道には、足場・道案内・ロープなど山外屋で手を入れてくれてある。道を塞ぐ倒木を処理するのも彼らである。同行してくれている辰野(白駒荘)・米川(黒百合ヒュッテ)・浦野(根理するのも彼らである。同行してくれている辰理するのも彼らである。同行してくれている辰ときいてノドを鳴らす。一年にとどまらず。ときいてノドを鳴らす。一年にとどまらず。

屋三人衆の漫才をまだまだ聞けそうだ。に三日間つきあってくれることになった。山小に野さんは業務無線で連絡をとって、帰らずわれている。

の高所研究所の依託によりマウス一五〇匹が飼

と子供たちに声をかける米川さん。信大医学部

植物の解説をしてもらうのが休み時間となり助す。90分かけて登るからゆっくりだとのこと。12時半いよいよ天狗に向けて岩場へ踏みだ

だときいて覚える。ぶ。トウヤクリンドウは煎じて胃薬とする当薬が。トウヤクリンドウは煎じて胃薬とする当薬かった。イワウメとイワヒゲが同じ岩場になら

上に詳しい人が多い。質問しにくいナア。リン色の諏訪湖。山の説明を聞いても信州人以が開ける。造成中の赤茶けたゴルフ場とバスクが開ける。造成中の赤茶けたゴルフ場とバスクーやにでべそのように横岳。すぐ横に赤岳が屹中央にでべそのように横岳。すぐ横に赤岳が屹立する。中岳・阿弥陀岳・編笠山とつづいて里立する。東から硫黄、その2時ジャスト東天狗山頂。東から硫黄、その2時ジャスト東天狗山頂。東から硫黄、その

天狗より根石へ。高山帯に入り植層が変わってくる。オニクという寄生植物・コマクサ。イでくる。オニクという寄生植物・コマクサ。イでくる。オニクという寄生植物・コマクサ。イを後大木先生より岩石の話。今井先生より植物のスライド。松沢先生より自然教室の状況植物のスライド。松沢先生より自然教室の状況植物のスライド。松沢先生より自然教室の状況を変帯省の動向をきく。8時頃はガスっていたが9時すぎに星をみる。関先生の用意してくれが9時すぎに星をみる。関先生の用意してくれた星座標を手に寝ころがる。

せが連想される。今日は歩き疲れて10時就寝。あるせいでもないが、豆腐をちりばめたてんよみにいく。近い。――北極星・オリオン・カシみにいく。近い。――北極星・オリオン・カシー東てつく。里なら11月の空気か。星をつか

### 硫黄からオーレン小屋

ら一○○mくらいのガレ場でのっそり草を食ん御来光見逃す。朝食後カモシカに逢う。小屋かが見えるゾ」という浦野さんの声で半分起きる。かモシカに逢う――3日目5時10分「日の出

ま樹間に消えた。でいる。敏捷な感じは全くしない。食べ進むま

程で硫黄岳山頂へ。

程で硫黄岳山頂へ。

本で統黄岳山頂へ。

でお茶をもらう。ガレ場の行進を続けて2時間の出に帽子を押さえる。風の影響で、ハイマツ(高風に帽子を押さえる。風の影響で、ハイマツ(高風に帽子を押さえる。風の影響で、ハイマツ(高風に帽子を押さえる。風の影響で、ハイマツ(高

歩積んできてここにいる。 根石と自分の歩いてきたところを追う。一歩一川まで見渡せるそうだ。白駒・ニュウ・天狗・川まで見渡せるそうだ。白駒・ニュウ・天狗・が層をなす。展望の良い日には関東平野・利根層をなす。鉢盛・上高地・乗鞍・北アルプス南南アルプス・中央アルプス・木曽駒・御岳が

あうという。む。小屋どうし食事が重ならぬよう連絡をとりむ。小屋どうし食事が重ならぬよう連絡をとり

かっぱ・ポンチョ・長袖・半袖と上着にバラエ1時。オーレン小屋へ向かう。ポツポツきた。

三〇〇mくだる。ティがでた。硫黄山頂より横道にそれ、一気に

ても、道を誤る者がでるらしい。三mもの積雪があるといくら目印を打っておい急ぐ。「ここで見つけた」「あそこからへりで急ぐ。「ここで見つけた」「あそこからへりでって掘れている。膝にくる。雷におどされつつって掘れている。膝にくる。雷におどされつつって掘れている。膝にくる。雷におどされつつって掘れている。

2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン着。ここは水が豊富。フロも2時半オーレン

たちの目で実践したらいいじゃないか、社会教 からであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであった。今井先生が義務教育のカリキュからであったというもの。既に自然体験グループ欲しかったというもの。既に自然体験グループで参加してくれたらなお結構。われわれは自分で参加してくれたらなお結構。われわれは自分で参加してくれたらなお結構。われわれは自分で参加してくれたらなお結構。われわれは自分で表別である。

見起て子共を集めている人から、 a 育の一つの種となれたらとおちつく。

現実に子供を集めている人から、自由にできる場所のなさが指摘される。子供が一人ひとりる場所のなさが指摘される。子供を半日以上い。一人一匹あたる虫がない。子供を半日以上のじゃいけないだけでなく、子供たちが自由にできる場所を設定すること。そのステップを経できる場所を設定すること。そのステップを経できる場所を設定すること。

覚える。森の手入れと言い聞かす。 ヴえる。森の手入れと言い聞かす。 ではなる。森の手入れと言い聞かす。 ではない、老けた子供は切り倒すことに快感を壊本能か、老けた子供は切り倒すことに快感を壊本能か、老けた子供は切り倒すことに快感を壊る。森の手入れと言い聞かす。

がほころぶ。
う。途中タマゴダケが結構採れて山小屋衆の顔・ヒメマツハダをみる。球果で区別をするとい・とメマツハダをみる。球果で区別をするとい

ている――実感できる4日間だった。く」で結ばれた。人間は森林に生かしてもらっを誘っていただく、そして子供たちに伝えていた生の「この集まりを良くしていただく、仲間出から降りて八ケ岳美術館にて閉講式。松沢

# 森林利用と自然保護

# 最近の国有林での自然保護をめぐる討論

萩野 参加者(敬称略)大内、杉本、岩崎、岡、福島 大日本山林会会議室 一九八九年六月一七日

## 《福島康記東京大学教授、問題提起》

昨年一二月七日、林野庁長官の私的諮問機関である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員会』である『林業と自然保護に関する検討委員ない。

### 二、委員会審議の経過

いろいろの経過はあったが、実質的には沼田き込み削除などくりかえしてまとめた。作文どおりにまとめるのでなく、激論の末、書れた。通常の諮問機関にありがちな、事務局の八七年一○月から八回の計論をへてまとめら

委員(MABの日本委員)の提案のMAB計画 ということが中心課題であったように思う。Mということが中心課題であったように思う。M 報告では「自然及び自然資源を賢明にかつ合理報告では「自然及び自然資源を賢明にかつ合理 報告では「自然及び自然資源を賢明にかつ合理 切の手を加えないという考えも含んだ幅広いもの」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の」として、保護・管理手段も5つに分け区分 の として、保護・管理手段も5つに分け区分 できる考えを示している。

山 (奈良県)、志賀高原 (長野県)、屋久島 (鹿間の働き掛けが環境をどのように変化させ、変間の働き掛けが環境をどのように変化させ、変間の働き掛けが環境をどのように変化させ、変間の最増に重点をおいて解決の基盤を確立することを目指している。この第8プロジェクト「自然地域及びその地域に含まれる遺伝物質の保全」では、世界で一七六箇所が指定されているが、日本では白山(石川県)、大台が原・大峰るが、日本では白山(石川県)、屋久島(鹿川の働き掛けが環境をどのように変化させ、変には、大台が原・大峰の場を対して、大台が原・大峰を対して、大台が原・大峰を対して、大台が原・大峰を対して、大台が原・大峰を対して、大台が原・大峰を対して、大台が原・大崎の場を対して、大台が原・大崎の場合が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場合が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場合が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場合が原が、大台が原・大崎の場合が原を対して、大台が原・大峰の側を対して、大台が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場が原が、大台が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の側を対して、大台が原・大崎の場が原になって、大台が原・大崎の側を対して、大台が原が見いた。

児島県)が指定されている。

「生物圏保護地域」は、中心に保護対象となる典型的自然をコアエリア(核となる地域)としてもち、その周りをバッファゾーン(緩衝帯)として旅行・レクのほか研究、環境教育、訓練として旅行・レクのほか研究、環境教育、訓練として流行・レクのほか研究、環境教育、訓練としてバッファゾーンという。移行地域)をもつ。(バッファゾーンという。移行地域)をもつ。わが国で指定されている白山の例を見ても、コアの体をなしていない。これは民有林が食いコアの体をなしていない。これは民有林が食いコアの体をなしていない。これは民有林が食いコアの体をなしていない。これは民有林が食いコアの体をなしていない。これは民有林が食い、一万三〇〇〇hのドイツのバイエリッシャウアルト国立公園などに及ばない。

持ちがあったろうと思いますが、その取り決めり決めがあるのになぜ反対されるか、という気取り決めだった。現場にしてみれば、そんな取保護に配慮すれば伐採自由」という環境庁との林の伐採問題の地域は、第三特別地域で「風景るため、国有林の保護林制度をみた。知床国有有林はこうした問題にどう対処してきたかをみったのは知床半島の国有林伐採問題でして、国

された長官通達だ。いう厚生大臣官房国立公園部長と協議の結果出いう厚生大臣官房国立公園部長と協議の結果出然公園区域内における林業の施業について」との根拠になったのが、三四年一一月二日の「自

MABの計画を実現する制度の問題も大きな、議論だった。ほぼ半数の委員が、法制でやるべきだと主張し、林野庁は、保護林の制度でやりたいと主張した。 保護林は大正四年の山林局長通達で、これが一定の実績をもっているからこの制度を活用したいという主張もあり、報告ではこれでまとめた。

昭和二五年 一〇万 三五年 四万五〇〇〇 四〇年 二万 六〇〇 四〇年 二万 六〇〇

### 六二年 一六万一〇〇〇四八年 一〇万三三〇〇

きると思う。 四七年には、「保護林の適切な 管理等について」という通達をだし、四八年に は、国有林の大面積皆伐への批判に対し「新し い森林施業」で答えるのですが(手抜き施業にな る側面をもつ)、そのなかで指定面積も増加して きた。現地をみると木曽のある保護林のように、 いい木を切って急傾斜地で切れないようなところを指定したり、峰筋を指定したりしていると ころもある。どうして減ったかは、よく分から ないのだが、国立公園に指定され特別地域にな ないか。ともかく保護林制度は一定の評価がで さいか。ともかく保護林制度は一定の評価がで きると思う。

### 三、問題として残る部分

また、自然環境保全法・自然公園法・文化財 は出なかったが、具体的に、どこに何箇所もう けるか、代表的な森林とは何か、という議論ま ではできなかった。現在、伐採が問題になって いる代表的地域の例示にとどまった。ほかにも 当然こうした地域はありうるという結論でした。 当然こうした地域はありうるという結論でした。 当然こうした地域はありっるという結論でした。 当然こうした地域はありっるという結論でした。 当然こうした地域はありっるという結論でした。 当然こうした地域はありっるという結論でした。 当然こうした地域はありっるという結論でした。

四、その後の経過有林の制度を運用したいといっている。国有林当局者も、MABの計画に近い考えで国国有林当局者も、MABの計画に近い考えで国生ならない。知床でも開墾地が入っている。先程の白山でみると民地が入りコア・バッフ

大野庁は四月一一日、長官通達で「保護林設を改め、森林生態系保護地域、森林生物遺伝資を改め、森林生態系保護地域、森林生物遺伝資を改め、森林生態系保護が、特定地理等保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林との森は地域の人が残したいと願うものを、御光ので、従来の四区分定要領」をだした。このなかで、従来の四区分定要領」を対した。

### 《質疑》

し、指 は言及していない。 対保者 の指定で、そこを指定するかどうかは林野庁でした。 福島 代表的なものの例示で、四箇所はMABかにも う関係するのか。 の指定では一二箇所か。四箇所の指定とはど議論ま 福島 分からない。

と署長が得々という。聖域すら収入確保に走ないところは二~一○○数十㎡。絶対切ってはならない。一木一草まで手をつけるな、とされていたが、台風の被害木をヘリで運び出したの歴史をみれば分かる。学術参考保護林は定の歴史をみれば分かる。学術参考保護林は定の歴史をみれば分かる。学術参考保護林は

えることでいいのではないか。その地域がコア

保護法の地域指定との関係ですが、重複して考

ア・バッファの規制が生かされることになる。・バッファの規制より緩い規制の範囲なら、コ

する。が、今後信用出来るのだろうか、という気がっている。先駆的な制度を大正年間に作った

☆外国はMABは国有林が多く、日本は民有地 が多い。施業計画も地域振興という側面をも が多い。施業計画も地域振興という側面をも が多い。施業計画も地域振興という側面をも が多い。施業計画も地域振興という側面をも

うことは…。 「非経済林だから一般会計から資金を」とい 長官通達もでた。裏付けになるもの、例えば 長官通達もでた。裏付けになるもの、例えば

一存でどうにでもなる。 難しいのでは。通達の中身はザルで、局長の☆法律的根拠を与えないと予算をつけることは

本施業計画は長官承認だが、計画は局で立てる。 会と天然更新、好況になると大面積皆伐という歴史がある。不況のいまは指定しても影響 す歴史がある。不況のいまは指定しても影響 はない。また木材不足時代でもくると伐採が 始まる。自然保護地域以外の森林施業にもっと投 始まる。自然保護地域以外の森林施業にもっと投 がまる。自然保護地域以外の森林施業にもっと投

に山林局が、直営の製材工場をつくったくら、 用価値がなかったからで、利用を広めるため、 をこうした指定で高めたら良い。 をこうした指定で高めたら良い。

> いだ。戦後乾燥技術の発達、広葉樹ブームないだ。戦後乾燥技術の発達、広葉樹ブームないたろうとって、屋久スから輸入しているし、東北で伐採しても高山へもっていき家具材になっている。 動物も木材も本物志向。森林で自然保護を含めたそうした本物志向を追い求めては。 かたそうした本物志向を追い求めてはがあたそうした本物志向を追い求めてはがあたる。 がまればなっている。

福島 原生地区には普通の人には立ち入りがた福島 原生地区には普通の人には立ち入りがた 「そんな地域がある。実際に利用しなく でも、「そんな地域がある。実際に利用しなく でも、「そんな地域がある。という でも、「そんな地域がある。という でも、「そんな地域がある。という だけで満足する。

☆アメリカは国立公園内で動物に餌をやること察ができる。そんなのが貴重だ。のが大変。寝袋で何週間も泊まってやっと観☆屋久島のサルで野性のものもいる。観察する

る。

くるべきということを提起している学者もい

☆学者も立ち入らない山を日本でも何箇所かつ

案を変更して増伐した。いまそれで悪者にな

は禁じられている。

てみたい。その時に自然がきちんとした形でもある。また、年をとって暇ができたら行っ☆未知性の保留、神秘性の保留という存在価値

もあると思うが。
保全されていてほしいというオプション価値

☆ドイツでは、ドクターや弁護士より森林官が 対集めるか、というレクもある。 が集めるか、というレクもある。 が集めるか、というレクもある。 が集めるか、というレクもある。 採中止になった。

本動物を増やすには広さが必要。 本動物を増やすには広さが必要。 本大台が原のシカは余り人を恐れない。 その他の人はなぜ天然林を切るのか、切るのは人工林だけでいい――という国有林はいままで天然林をうまく扱った経験がない。 ままで天然林をうまく扱った経験がない。 ままで天然林をうまく扱った経験がない。 ままで天然林をうまく扱った経験がない。 なり人を恐れない。 ままで天然林をうまく扱った経験がない。 ままで天然林をうまく扱った経験がない。 なり、当時は「なぜ国有 株は切らないか」一色の批判で、結果は施業

☆人工林は行き着くところまで行った。富良野えれたが、今なら切っても植えれない。

た、と思う。あの頃だから労働力があって植っている。長いタームでみればあれで良かっ

が分かる。 東大演習林のような山をみせると森林の良さ

福島 当時薪炭材をただ切ってくれたから改良福島 当時薪炭材をただ切ってくれる人が居ない。山ができた。今は切ってくれる人が居ない。山位が確立してはっきり物を言えば良かった。そこをはっきり言わずに林学の技術で可能なようにいって迎合した。

が置けない ——となる。 が置けない ——となる。

☆天然林施業はいいが、日本では手抜き施業に

☆国有林は、不要な山を売って資金にして三三然保護と観光、好況では木材。地域活性化などともバランスをとって。明治以来皆伐してがともバランスをとって。明治以来皆伐して、好況では木材。地域活性化な

林財政を支えている。 (大子)例などもある。それが、いまの国有 (大子)例などもある。それが、いまの国有 (大子)例などもある。それが、いまの国有 が、回る値えた。それとそ大面積一斉造林で、

☆林野庁が林政と経営をやることが困難でない

☆森林省にするべき。ドイツは民有林までもや

☆施業の研究は時間がかかり、研究する人はい☆施業方法、管理手法の開発・研究は。 日本は白神で二万kb。国土の狭さをかんじる。 会施業方法、管理手法の開発・研究は。

たが、森林組合がきちんと補助事業でやって☆森林の経済性は無い。私は田舎に山を買いまし

# 国有林と自然保護

本、田中、遠山、森田、萩田市者(敬称略)大内、岩崎、大江大日本山林会会議室

北畠、

杉

≪萩野敏雄大日本山林会常務理事、問題提起≫

I、国有林の成立

①明治二年七月幕藩有林の録上をしますが、こ立の歴史を踏まえた議論が必要だ。立の歴史を踏まえた議論が必要だ。国有林の成

②明治四年一月に社寺領を上地させる(大正時有林の中核となる。

代の統計で四万㎞ある。うち神社二万六〇〇

③旧旗本上地林。

O ha o

⑤そして時間的余裕ができた明治七年一一月かの証拠のあったものは民有林にしたが、証拠の無いものは地券を発行して公有地として役場にいものは地券を発行して公有地として役場にのが大部分であったと思われる。

ことも提言していいのでは。手入れをしない山を国が手に入れて管理するくれる。自分でも間伐も二回はやりましたが。

山林・官有原野)になる。 ほぼ終了する。公有地の大部分が官有(官有ら官民有区分を始め、一六年一二月までには

六三万㎞)
Ⅱ、国有林の管理(昭和六三年四月一日現在七・官有原野という三つがあった。

①府県所在

り、一二月に農商務省が全面的に直轄化。第一次森林法公布により名称が「国有林」とな原野は府県が管理していた。明治三○年四月に原野は府県が管理していたが、官有山林や官有

②北海道所在

んにちの国有林に引き継がれた。後に道有林」三四五万町歩、「道有公有林」四五万町歩はそのままてあとの二つが地方自治育成ということで今次戦あとの二つが地方自治育成ということで今次戦「国有林」三四五万町歩、「道有模範林」一九「国有林」三四五万町歩、「道有模範林」一九

万町歩 帳面積)を選んだ。御料林は、太平洋に向いた ③明治二二年~二三年、帝国議会が開設される ため原野も編入し、小作に出すようにした。 森林を囲い込んだ。また、早急に収益を上げる ・木曽を中心として太陽の昇る(南・東方向の) 流域が指定されるが、天皇の山として、富士山 海道・三重県までの府県の国有林中から三五七 (うち北海道二〇〇万町歩=いずれも台 ということで御料林が創設される。北

④林政統一 (農林省所轄国有林)

する (三四五万m)。これらと府県所在の国有林 といってきた農商務省の戦前からの主張が実現 御料林が皇室の財産税の代わりに物納された。 (三四五万加)の合計七九二万加が国有林とな (一三〇万h)。ついで北海道の国有林を「渡せ」 昭和二二年四月~五月にかけて実施。まず、

明治一二年五月 山林局創設

九年四月 現在の営林署組織の前身の大 林区署制がとられる。

昭和二二年 大正一三年一二月 四月 営林局署制(翌年農林省と 意向で、 林野庁(外局) 商務省に分かれる)となる。 長官が事務官から 駐留軍の

昭和二四年 六月 林野庁(一四営林局、三一

技官に。

九月 業は非能率であり、公社に 「国有林公社論」論争(官

および造林の過不足で調整勘定をするという

採量を決め、それと連動させたことだ。伐採

言い出したのはパルプ系の して効率良い経営を標榜。

特別会計は戦後だけでない。 国有林の会計 外郭団体の人。 -特別会計の沿革

①第一次別途会計 (明治一一年七~一三年六)。 で木材を輸送することまでした。結果は失敗 イギリスから船を買って、名古屋から東京ま

②第二·三次別途会計。 (明治一七年七~二三

③森林資金特別会計期 (明治三二年四~大正一 このための特別会計法をつくって別段に処理 をした。 造林(新植のみで三○万町歩)など行った。 未済一三万町歩)し、その資金で施業案編成、 一年三)不要な林野を七八万町歩売却(処分

④特別会計期(昭和二二·四以降)

ア、木材統制下で「赤字対策」として進駐軍の 別会計は黒字に転じた。 朝鮮戦争の影響もあり木材価格が上昇し、特 赤字続きだった。二五年一月の統制撤廃以降は あたって持参金もなく、木材統制撤廃までは し切られたようだ。しかし、特別会計発足に たが、余りの赤字見込みと進駐軍の意向で押 財政一元化で、特別会計制度創設に反対だっ 意向で、特別会計制度をつくった。大蔵省は この特別会計の決算の特色は、 施業案で伐

ウ、 国有林の面積の増減

購入をつづけていた。 林業の経営には問題のある山を購入したこと こうした制度により、良い山を多く失ない、 有林野活用の名で処理上売られた。いわば、 国有林が安く市町村に払い下げされ、また国 市町村合併ための基本財産創設という名目で 民有保安林を買い入れる。また、市町村・新 で売り払いや購入。二九年から保安林整備で になった。国有林が赤字になっても保安林の 緊急開拓で開放、林野整備(二五年から)

以上の経過は、国有林の経営が苦しくなる要因 発公団への出資に充てたりしたほか林政協力 材価格対策などで伐らざるをえなかった。 会計の負担でやることなどすすめた。また木 で治山・林木育種・林道などを国有林野特別 分は外へ吐き出せという利益処分をする。開 林政協力事業と利益の外部処分 三六年に特別会計法を改正して、 利益の半

①施業案

ものに限定)

Ⅳ、森林施業制度(北海道を除く山林局所管の

が、多くあったことを示している。

ア、明治一九年に武井守正山林局長がドイツか ら持ち込む。

イ、大正三年には離島以外は施業案編成を終了。 西表島(沖縄県)の昭和一七年で完了。 し択伐作業を取り入れる。これは、当時失敗 昭和四年度より施業集約度向上の方針を出

ようとしている。 したといわれながら、いままた取り入れられ

オ、三三年度に経営規程を大幅に改正し、施業 二二年度に暫定植伐案、二三年度より「国有 採齢は引き下げられた。 使わないで実際の数字を動かして算出するよ に広げた広域森林施業。収穫規整方法も式を 署をまたがり、取り扱いを一緒にする施業団 といわれるものだ。その特徴は、施業の単位 成長量以上を伐り、拡大造林などを推進した 理化」(三一年一〇に作業開始)の一環で、 仕組みは抜本的に変更した。「国有林経営合 ルとした。私はこれは問題だったと思う。 在高法を採用したが、これを法正林とイコー にシフト(特別会計の経理法と連動)。恒常 規程と同じであるが、標準年伐量は成長量法 林野経営規程」で編成。仕組みは基本的に旧 を営林署ごとに作業級ごとに決めていたのを 木材消費の構造的変化もあって伐

結果、さらに四割近い増伐案となった。三〜三五年度と伐採量を増していたが、その対増産計画を河野農林大臣の指示で策定。三カ、木材価格安定のため、三六〜七五年度の木カ

きった。 、四八年三から「新しい森林施業」を始める。 ・三年頃から高まった自然保護への配慮 という区画をして伐採することになるが、保 という区画をして伐採することになるが、保 の二・三年頃から高まった自然保護への配慮

### ②自然保護と国有林

のもあった。

屋久島は入ってない。なかには一~二反のも在四九個所、三万四六九九町。この段階では在四九個所、三万四六九九町。この段階では

自然公園

森林レク制度

V、その他(私の森林・林業についての所感)V、その他(私の森林・林業についての所感)

②国有林の成長量先食い論

作物と違って、成長量と伐採量は一致せず、極盛相の天然林には成長量はない。畑の農

では三寸さら。のは主林木であり、それは他の林木の成長量のは主林木であり、それは他の林木の成長量の先食いとなる。伐採する循環的経営のばあいの伐採は、将来の成長を

③「戦中・戦後の過伐・乱伐」論の相対性

③「戦中・戦後の過伐・乱伐」論の相対性

「戦中・戦後の過伐・乱伐」論の相対性

「戦中・戦後の過伐・乱伐」論の相対性

●報告者の「森林資源○報告者の「森林資源・植生資源・動物資源・水育源・木材資源)、「属性としての資源」(土地ア、森林資源は「本性としての資源」(土地テ、森林資源は「本性としての資源」(土地)

が、年主伐材積は増加する方式をとるべきか、森林構造改良では、総資源量は減少するが、年主伐材積は増加する方式をとるべきが、年主伐材積は増加する方式をとるべきが、毎品と資源は別。造林は資源づくりであ

### ⑤屋久島の調査

安とする)。まさに驚異的な成長である。の一年前後で交差し、その時点を収穫期の目長量と平均成長量が交差していない(通常は長量と平均成長量が交差していない。スギは、からの研究・調査はされていない。スギは、

### ≪質疑≫

☆自然保護と施業案の関係は。

な自然保護をではない。木材生産力を中心にしているので、小回りはきかない。民間と合意の上るので、小回りはきかない。民間と合意の上るので、小回りはきかない。民間と合意の上のもので、自然保護と施業案の関係は。

☆伐採時期の決定は。

護に近付くのでは。 ☆伐期を遅くし、経済効率を重視すると自然保 材積中心で伐期齢が低下している。 萩野 明治期は森林純収入最大の時期。今は、

萩野 今の国有林は長伐期の方向にむかいはじめている。二八年の紀州水害で小丸太の出荷が止まり、西高東低の材価が崩れ、小丸太の価格が大径材と変わらぬようになったこと、需要増大が伐採期を下げた背景。その頃は輸入の視点なく、国産で自給する姿勢だった。「国設大公園」と「史跡天然記念物」だ。さいで、「史跡…」をすすめた。当時山林局は、国有林に問題がくるのではないかと心配は、国有林に問題がくるのではないかと心配し、それが保護林の制定になった。

> 代議士にいいき、国立公園をみて静岡県選出の 代議士にいい、代議士が国設公園として請願 した。国立公園法は昭和六年にできる。 民」の誤訳でないか。ナショナル・バンクは 国の法律で設立された私立の銀行で、それを 国の法律で設立された私立の銀行で、それを 「国立」と誤訳した。州法で設立された銀行 「国立」と誤訳した。州法で設立された銀行

で「ナショナル・パーク」を「国立公園」と で「ナショナル・パーク」を「国立公園」と で「ナショナル・パーク」を「国立公園」と で「カショナル・パーク」を「国立公園」と

萩野 保安林の八割は水源かん養保安林。水源 茶野 その最終的権限は中央。造林方針書や施 業計画での指定はあるが、伐採木の具体的な 業計画での指定はあるが、伐採木の具体的な 業計画での指定はあるが、伐採木の具体的な のは伐採しやすいところを伐り、裸同然だ。 自然保護に関する意思決定が大切。

林造成は本来は木の無いところに木を植えるのが「改良」だが、広葉樹林を伐採して針葉樹林にすることも進められている。
対かるようにすべきだ。学界でコンセンサスは得られないか。

生出来ない資源もあるのは当然である。 発しなければ成り立たないから妥協した。再 発しなければ成り立たないから妥協した。開発 発しなければ成り立たないから妥協した。開発 の関発」で、これは本来誤りである。開発

☆いまの施業案は木材生産のためのもの。今後い。のの施業案は木材生産のためのもの。今後☆国有林は集約的に出来ない。そこで成功しな

☆いまの施業案は木材生産のためのもの。今後 は自然保護のための施業案を作るには。 自然保護のための施業案を作るには。 団体などの合議により、自然保護施業案を作 団体などの合議により、自然保護施業案を作るには。

☆国民的視点を入れるには、全部地元というのったほうが良いと思う。

は人工林を活用し、天然林の伐採を止められ☆亜高山地帯の造林は成功していない。国有林提言もあるし。

萩野 昭和三三年の「国有林生産力増強計画」 ☆ドイツでは一○○年以下のトウヒを切らない ☆ドイツでは一○○年以下のトウヒを切らない は三○年間で森林構造を変える計画だった。

### 新聞 ・この三カ月〉

6 月

林局事業計画 長野営林局は五日、 96年度めど半分に 日 天然木曽ヒノキの伐 (六月) 八九年度の 長野営

に示した第三次の施業計画でも八 かにした。同営林局は、七七年 伐の批判のある天然木曽ヒノキに にすることを打ち出したが、実際 六年度には三万五千―四万立方は 穫(伐採)量を現行の半分以下、 ついて、九六年度をめどに年間収 事業計画を発表した。この中で過

が高く、十分に減らせなかった。 することはないと思う」などと説 元木材関連業界でもヒノキの比重 けている。局側は「今までは、地 しており、地元から強い批判を受 には計画をはるかに上回って伐採 研究を始めており、 している。 業界も今後の対策や代替樹種 計画が後退 への誘致に取り組む。 態系協会(ISME) な組織である国際マングロープ生

湯布院にログハウス村 市公害研が国際比較 宮日

西日本

地「ログハウス村」の開発が、 ログハウスを掛け合わせた九州で 振に悩む日田地方の関係者も注目 産の木材を使う新方式に、木材不 町塚原で進んでいる。日田・玖珠 は初めてのログハウスだけの別荘 分県大分郡湯布院町と、ブームの 都会派に人気の高い観光地・大 盲

している。 沖縄県に八日、 沖縄に協会発足(九日) 社団法人・沖縄

調査研究や、 展を図ろうというもので、 行政が三位一体となってマングロ AM、会長木崎甲子郎琉球大学教 国際マングロープ協会(OKIN プ生態系の保全と利用に関する が誕生した。大学と民間企業 国際協力の一層の進 国際的 さ求める住民 カヤの平開発で初の説明会 積極的 (二八日)

雇用の確保

一村は

酸性雨激しい中国 金沢市に大 横浜 る第三セクター方式で開発する構

過疎脱却へ開発に積極

本部の沖縄

性物質の影響が出ているなど各地 は既に中国大陸からとみられる酸 いわれる中国のデータが明らかに 標を基に試みた。汚染が激しいと 鶴田治雄主任が新しく考案した指 国際比較を、 界的な問題になっている酸性雨 陸の影響(一五日 の酸性雨の特徴が明らかになった。 なってきたため可能になった研究 | 信濃毎日 酸性度は低いものの、日本海側で 広範囲に森林を枯らすなど、 日本の雨は欧米や中国に比べ 横浜市公害研究所の 「ブナ原生林守って」 世 0

初めての住民説明会を開いた。国 発構想について、 が計画している大規模リゾート開 高原で、 有林を利用するため、 下高井戸郡木島平村のカヤの平 東京の大手企業など六社 村は二十六日夜 村も参加す

> 的な姿勢を示したが、 場との競合問題から、 を求める意見が出た。 自然破壊の心配や既存スキー 出席者から 慎重な対応

月

~8月

に活用/環境庁方針(一二日) 立公園で初適用 国立公園を訪れるハイカーや観 尾瀬湿原に入園料制 料金、 環境保全

馬三県の関係自治体と近く協議を は十一日、 光客が増え過ぎ、景観を損なうケ 始める。 瀬湿原を予定し、福島、 指定の第一号に日光国立公園の尾 業に充てる方針を固めた。同庁は 恐れの強い地域を「特定保護地域」 で特に自然が荒らされたり、その ースが目立ち始めたため、環境庁 徴収して排水処理など景観保全事 (仮称)に指定、初めて入園料を 来年度から国立公園内

の会 初めて(一三日) 諸のゴルフ場 **羅信濃毎日** 反対署名へ 「広域リゾート」小 「水源守れ」住民 浅間山ろくで

れるほか、 開き、県、 計画で「小諸市水の会」は十一日 決めた。行政指導で進む佐久地方 小諸市・浅間山ろくのゴルフ場 市民会館会議室で結成総会を 反対の署名運動などを 市に計画中止を申し入

山ろくでは初めての反対運動。 の広域リゾート計画のうち、 状に設ける計画そのものの欠陥を 会は水源地の上部にゴルフ場を帯 し運動を進める計画だ。 小県郡東部町住民とも提携 山ろくの御代田町、 、軽井 浅間 同

県知事らが反対 二八日 尾瀬入園料有料化 自然保護団体は 群馬

由で反対することを明らかにした。 いて、地元の群馬県や福島県桧枝 これに対し自然保護団体は、環境 岐村は「観光客が減る」などの理 園尾瀬湿原の入園料徴収問題につ ともに、山小屋の徹去費用などに 庁に対し入園料徴収を支持すると 充てるよう申し入れた。 環境庁が打ち出した日光国立公

労県本部 二八旦 中日 木曽地域に活力を 2年かけ振興策調査 自治

活動として「木曽の自然と地域社 は県地方自治研究センターの研究 化が進む木曽地域の現状や背景を 会調査」に取り組む。過疎・高齢 団を派遣する。 が目的で、 活性化の展望や政策を提言するの 一年間にわたり調査し、地域振興、 自治労県本部(太田忠久委員長) (森林経済) 近く野口俊邦信大農学 を団長に調査

日 高知 宿毛市きょう営林局に要請 宿毛楠山地区のリゾート計画 ヒューマングリーンプラン導 ゴルフ場など五〇〇畑開  $\cong$ 

のリゾート計画を進めている宿毛 ランに合わせて、 市の計画案がまとまり、 指定要請は宿毛市が初めて。 の候補地はあるが、 する。四国では六カ所に同プラン 営林署を通じて高知営林局に提出 十一日、候補地選定要望書を宿毛 林野庁のヒューマングリーンプ 宿毛市楠山地区 自治体からの 同市は二

### 月

(八日) 岐阜 在来工法のよさ見直しを

われる。使用材の質低下、 をめぐる環境が悪化しているとい って本来なら五十年、百年もって 技術の衰退、手抜き工事などによ 例えば、七年前発足の日本建築 見直そうという動きが起きている。 が、日本の木造建築を千数百年に くる家屋が増えているというのだ いいのに、二十年、三十年でがたが 口を中心とする在来工法のよさを の知恵、 わたって支えてきた木材について セ 日本では根強い人気の木造住宅 ミナー。 知識、さらに継ぎ手、 東京に全国から常時一 工法。 仕

などを見て歩いている。 か、年数回、 て月一回、 百人の設計士や大工職人らを集め 専門家の講義を聞くほ 社寺や数寄屋、

| 日経

旦 それによると、単年度の収支は五 業の一九八八年度決算を発表した。 国有林野事業の累積赤字は八千五 比べ七億円減少した。この結果、 幅は前年度(五百四十二億円)に 百三十五億円の赤字となり、 七年度から始まった経営改善計画 十八億円に膨らんだが、同省は八 農林水産省は八日、国有林野事

ている。 年度には収支が均衡すると説明し に沿って赤字縮小が進めば、九七

| 高知 2・4・5T系除草剤の埋設につ 有林への猛毒ダイオキシンを含む を再調査(一六日) いて高知営林局は二十一日から二 昭和五十九年に明るみに出た国 高知営林局 土壤、 水質

行う。 設反対 五三〇人の署名を提出 **羅信濃毎日** (二五日) 黒姫 「童話の森」 建

秋男町長に提出した。 町内の住民を中心に約五百三十人 ついて、 発を計画している「童話の森」に から署名を集め、二十四日、竹内 建設に反対する住民らが 署名は反

林野事業の赤字幅微減(九

赤字 円を負担させ、 町役場を訪ね「計画は地元に八億 は幹事役の中村正夫さんら二人が 中心になって集めた。二十四日 行革審 翻 日 経 う求めた。 ある」と改めて事業を中止するよ 対派の「『童話の森』を考える会」が 八旦)

自然破壊の恐れも

来年四月に最終答申(一 林野事業の民営化柱に

十四日にかけて、幡多郡佐賀町の 業の民営化が浮上してきた。財政 文平会長)が来年四月に提出する 達成が確実視される中で、政財界 度での赤字国債依存体質脱却」の 広がってきたことから、改めて民 再建目標に掲げてきた「平成二年 最終答申の柱として、 に「行革は終わった」との見方が 臨時行政改革推進審議会(大槻 国有林野事

窪川営林署9班へ小班内で周辺の 土壌および水質について再調査を 上水内郡信濃町が黒姫高原に開 営化路線の目玉を設けて、 どの反発は必至で、首相の指導力 12 ある。海部首相は消費税への反発 体への熱意を呼び起こすねらいも をやわらげるためにも行革の推進 を問う意味でも焦点となりそうだ。 意欲を示しているが、 行革全

### 東山魁夷展 顧問の東山画伯の「ベ

だけに連日ファンで賑わい名画との対面 表作」が一堂に会したものでした。それ 展で、この展覧会後は、ドイツの美術館 2月~7月に開かれた巡回展の帰国記念 送った西ドイツ・ベルリンなどで、今年 月31日―9月19日)。 画伯が青年時代を 京・日本橋高島屋で開催されました(8 に納められる作品も展示され、画伯の「代 ィーン巡回展帰国記念」の展覧会が、東 ルリン・ハンブルグ・ウ

> しました。 を飾った「曙」「緑響く」などもあって、 静寂のなかに季節を語る筆の魅力を実感 を果たしました。『国民と森林』の表紙

より、二代目会長に選ばれたもの。 に就任。初代会長の茅誠司さんの物故に 高橋延清さん 6月19日の総会で

筋こうそくのため死去。七二歳。岡山県出 福武直さん

武直さんが、8月2日心 会員の東大名誉教授福 「緑の文明学会」会長

○編にあふれています。 する人びとを育てようという思いが、

五

会員の出した本

地域の文化を考える「行政のこれっだと した「世は成熟化か幼稚化か」、「限りな 業の国際化の道を探る」や文学論を展開 考えた「集中は美学、分散は美徳」。「農 いう文化化」。四全総と森林など開発を 像を描く「これはと思う人物を考える」。 生涯学習」。竹下首相から王監督の人物 む」。生涯学習を説く「ここにしかない を説く「これっしか文化が新田舎人を生 もつバランス人間で〝新田舎人〟の養成 都会センスと自然・土・農のセンスを

すように、

\*生涯学習 \* を市政の基本に

すえた筆者が、毎月二回広報『かけがわ』

した (¥1450)。

副題に「掛川学事始第五集」とありま

村純一さんの本が清文社から出版されま

これっしか文化のすすめ

川市長の榛 会員の掛

> 界農村の旅」で毎日出版文化賞を受賞。 査を重ね、一九六○年教授。著書の「世 ただいた。 会議でも発足以来の会員として助言もい 大学生協連合会長なども務め、国民森林 年)、中央社会福祉審議会委員長、全国 定年退官後は社会保障研究所長(81~86 の社会的性格の解明のためフィールド調 東京大学文学部社会学科を卒。農村

れた幅広い掌編です。 く良寛、尊徳に近く」の八章にまとめら

ンタビューを参照)。 る「市長奮戦記」ともいえる一冊です。 (本号6ページ「リゾートと森林」のイ 地域の活性化をソフト面からも追求す

行されました(¥12000)。 東山魁夷 談社から全五巻の画集を発 顧問の東山魁夷さんが講

第二巻は京都の風景を中心とした「風景 遍歴」。「風景との巡り合いは、いつの場 カ月に一回の割合いで刊行されますが、 第一回配本(第二巻)は6月15日、

にしかない」という文化をさぐり広める

"生涯学習"で、両親と郷土を愛

地域活性化には、「これっだ」「ここ

すでに二○○回分四冊を刊行、本書はそ

に市長レポート「掛川学事始文」を執筆。

の第五集にあたります。

合も、ただ一度のことと思わねばなりまけん。自然も私たちも共に生きていて、せん。自然も私たちも共に生きていて、のある巻頭の筆者の一文は「日本は自然の風景美に恵まれた国であります。私たちはこの日本の自然を大切にする心を、ちはこの日本の自然を大切にする心を、かつまでも失いたくないものです」という言葉で結ばれます。

その日本の風景を描いた八四枚の名画を明上の日本の風景を描いた八四枚の名画をかった名画もこの巻に収められていまで東山魁夷の世界がくり広げられていまで東山魁夷の世界がくり広げられています。第二回配本「欧州紀行」は8月発行す。第二回配本「欧州紀行」は8月発行す。第二回配本「欧州紀行」は8月発行す。第二回配本「欧州紀行」は8月発行する。

日本に森林はいらないか ショッキン

論社・¥1236円)。 論社・¥1236円)。 論社・¥1236円)。

も登場します。 議の会員が参加しているだけに、本書にフォーラム実行委員会にも国民森林会

「自然保護と林業の調和は可能か」(湯

解決のためへの座標を示しています。解決のためへの座標を示しています。「地域にとたらすか」(秋山紀子会員)、「地域にとたらすか」(秋山村は再生できるか」(杉本一幹事)など第一部は『森林がなくなる前に』と題して開かれた東京での森林フォーラムの五分科会の報告。第二部は地方からの報告で札幌・仙台・大阪(半田良からの報告で札幌・仙台・大阪(半田良小町幹事がまとめの解説の筆をとって内山節幹事がまとめの解説の筆をとって、森林の直面している危機の背景と、いて、森林の直面している危機の背景と、いて、森林の直面している危機の背景と、いて、森林の直面している危機の背景と、いて、森林の直面している危機の背景と、いて、森林の直面している力となる。

した(¥1400)。 マタギを生業にした人たち 野添憲治

秋田県の北部、阿仁町に仮の住居を構入田県の北部、阿仁町に仮の住居を構入の町で見聞きした話を収録したもの。この町で見聞きした話を収録したもの。この町で見聞きした話を収録したもの。この町で見聞きした話を収録したもの。(15編)、「マタギを生業にした人たち」(15編)、「マタギを生業にした人たち」(15編)、「マタギを生業にした人たち」(15編)、「マタギを生業にした人たち」(15編)、「マタギを生業にした。

いう筆者の秋田県北からのレポートといという読み方」(あとがき)ができると全国の山村の過疎地と共通しているのだ「阿仁町で日常的に見られることは、

えます。

00)。の0)。の0)。の1)。の1)。の2)。の3)。の4付られたの4付られたの5の戦後史が「南伊予みかんの里会員の安達生恒さん

変ろうとしているかを描きます。変ろうとしているかを描きます。筆者が1952年からかかわってきた農漁民の暮らしと闘いを、農政とのかかわりで点検しまとめたもの。獅子文かかわりで点検しまとめたもの。獅子文かかわりで点検しまとめたもの。獅子文かかわりで点検しまとめたもの。獅子文かかわりで点検しまとめたもの。獅子文がかわるようとしているかを描きます。

勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。 勇気を与えてくれるとも思えます。

# 熱帯雨林シンポジウム開かれる

ウム」は、両日で延五○○人近い参加者が加わ 新宿住友ホールで開かれた「熱帯雨林シンポジ り熱っぽい討論を続けた。タイ・中国・ブラジ 国民森林会議などが後援し9月9・10日東京・

> 参加し、国内パネラーとも意見を交した。 ル・マレーシア・フィリピンなどからも講師が

(詳報は次号)

# 行動

## のとき - 熱帯林の保護と再生のための東京アピール

森としての役割を果たしてきた。 その熱帯雨林を中核とした熱帯林はいま、毎年 太古から熱帯雨林は、地球の環境を守る母なる

にわたって破壊してしまうことになるだろう。 崩すばかりではなく、熱帯諸国の生活基盤を将来 させ、森林内に生息する動植物の生存条件をつき は毎年一五〇万ヘクタール前後しかなされていな ○万へクタールが消失していきつつある。再造林 北海道と九州を合わせた面積に相当する一、一三 い。熱帯林の減少は、その国と地球の環境を悪化

成長を遂げてきた私たち日本人の責任である。 浪費と熱帯林からの木材の輸入にも依存して経済 生きる私たちの子孫に、消失した森を再生し渡し めをかけ、保護するばかりでなく、二十一世紀に ていく責務が課せられている。それが天然資源の 私たちには、この地球の母なる森の消失に歯止

すべき役割についての話し合いが行われた。 ンポジウム」では、各国の熱帯林の現状が報告さ れ、熱帯雨林の保護・再生のためにわが国が果た 熱帯林の多くは、 一九八九年九月九・十日、私たちは東京におい 「熱帯雨林国際シンポジウム」を開いた。「シ 人口が増加する熱帯諸国の食

> を支える役割をも果たしている。 確保のための資源などとして、その国の人々の生 糧確保のための農地の開発、燃料、住宅用の資材 活を維持し、外貨獲得を通してその国の経済活動

く遅れている。 資金・人的な要素も絡んで、再造林ははなはだし 地域であるが故に技術的にもきわめて困難であり、 しかし、その結果消失した森林の復元は、熱帯

が多く、森林資源の保全・開発地の修復などを計 画的に行う態勢ができていない。 林計画及び森林管理制度などが定着していない所 熱帯林を抱える国の多くは、土地利用区分・森

な支援と連帯の道を探求していかなければならな 農山村の経済と暮らしの安定をめざして、総合的 熱帯林の保全に取り組むとともに、木材生産国の 帯林を再生するための造林支援・残存する貴重な の教訓を生かし、木材輸入国の責任において、熱 私たちは、日本における戦後造林の成功と失敗

して設定する。 私たちは、次の三つの行動計画を緊急の課題と

一、国民生活レベルにおいて熱帯林の現状と役

林資源の保全に関する国際連帯と協力の輪を 〇への支援、国連など国際諸機関において森 割について認識を広め、自主性をもったNG

二、私たち国民一人ひとりが、森林が生みだす 多様な資源は有限であり、経済活動のあり方 とあわせ、国内森林資源の適正な利用と拡充 及び大量消費などのライフスタイルの見直し

て成し遂げられる。 消費国の政府・国民の行動が一体化して、はじめ 積極的な対応と、その行動を支援する私たち木材 三、熱帯林の保護・再生にあたり生物と環境動 熱帯林の保護・再生は、その国の政府や国民の おける技術員の増員、派遣条件の整備・改善 どを創設するほかあらゆる分野で直接現地に 態を含む「総合情報・技術研究センター」な を図り、森林保全に有効な措置を講ずる。

ち出すことを希望する。 が熱帯林の保護・再生に向けて積極的な政策を打 れる。私たちはこの「会議」において、日本政府 主催の「地球環境保全に関する東京会議」が開か 九月十~十三日には、日本政府と国連環境計画

の保護・再生に向かって行動することを訴える。 られた現代文明を享受するすべての人々が、国 境を越えて、地球の母なる森・熱帯雨林・熱帯林 林業に携わる者も、消費者も、そして森林に支え 私たちは、自然保護に携わる人々だけではなく いま、行動のときである。

九八九年九月十日

熱帯雨林国際シンポジウム実行委員会

会員紹介

紹介。する欄です。生 の方は到着しだい掲載 いたち、著作、モット (五〇音順、 多様な会員を『自己 ジなどお寄せ下さい。 好きな本、メッセ 一部未着 

します



· 三〇生 学歴―昭和 出生地一京都、 一九一・一一 京都帝国大

州大学農学部教授(森林科学科)。

大学農学部林学科卒業。現在、

一九三一年滋賀県生まれ。

京都

構造」・「自然との共存」(共著)

主な著作は「カラマツ材の需給

間にとって森林とは何か」など。 ・「森林をみる心」(共著)・「人

好きな作家は辻邦生。好きな音

学·農学部 府立大学学長、両大学名誉教授。 日本モンキーセンター所長、京都 業試験場、京都大学農学部教授、 職歴=秋田営林局、 著書=日本の森林、森の生態学 山林局、 林

多様化しなければならない。それ 解したり、 には森林の持つ基礎的な特性を誤 しく多移化している現在、 開発、環境保全共に価値観が著 好きな作家=水上 曲解しないことが肝要 勉。 対応も

四手井 綱。 英智

島北 Ht

札木」が資材として要求されてい 総幕領の御林立木調査では「笹板・・・ 塚和実氏)、野州日光領には「笹板 木履・笹板・桶木」であった(貝 大滝村では「山稼八色」が「鹿料 での山稼の対象は笹板。隣村の秩父 纂所の佐藤孝之氏によれば、ここ 領とむかし呼ばれた。東大史料編 · 柾木取職人」(沢登寛聡氏)、常 ・挽板・羽子板・鍛冶炭・鞘木・ 本会の定点調査上野村は、山中

札に使われた木簡に遡れば夢は悠 たるであろう。 る(酒井右二氏) 名か。さしづめ関西の野根板にあ 笹板とは白木の枌木の関東通称 もしそれ、古代奈良朝の調の荷

東大名誉教授、つづいて東京農大 大農卒、研究室にどっぷり漬って 著書に「森林組合論」 一九〇三年東京生れ、二六年東 大日本山林会長を経て名誉 現在閑居。

ことが必要であると感じています。

森林を本当に理解するために、と

かく山村や森林を体験していく

久である。

楽はモーツアルト。

都市に住む人が、

山村や林業・

錦丸 蔵;

菅が 原豐

聰音

問屋組合正史」など。 筏林業盛衰史」

「江戸・東京材木 (地球出版) 「流

(岩波)

林政学概要」

# 森林の未来を憂えて

## —国民森林会議設立趣意書-

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六〇年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村がら大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。 たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。

一、森林は、林棠にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。一、山村に住み、林業で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。

一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を

を望んでやまない次第です。 期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご贊同とご加入

一九八二年一月九日

### 季刊国民と森林

1989年秋季号 第30号

- ■発 行 1989年10月1日
- ■発行責任者 隅谷三喜男
- ■発行所 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03(583) 2 3 5 7 振替口座 東京2-70096
- ■定 価 1,000円 (〒共) (年額 3,000円)